

平成28年度

公立大学法人広島市立大学の業務実績に係る評価結果

平成29年8月

広島市公立大学法人評価委員会

公立大学法人広島市立大学 平成 28 年度業務実績に係る評価

全体評価

評価の記号

A：法人の業務は、中期計画の達成に向けて順調に実施されている。

評価コメント

平成 28 年度は第 2 期中期計画の初年度に当たる。第 1 期が始まった 6 年前では、それまでの大学の一般的活動目標として要請されていた「教育」と「研究」に加え「社会貢献」が新たな活動目標として求められ、広島市立大学においても法人化と共にその活動領域を大きく広げることとなった。その後、大学を評価する視点も徐々に深化し、第 2 期中期計画を構想する段階では、知識創造の原理に立ち返り大学の動的活動形態に着目し、例えば学生の成長を現出する仕組みとして学内外における連携を通した「交流」の在り方が問われるようになってきた。

第 2 期中期計画としては、社会の趨勢を先取りした教育研究目標の設定に加え、学生の知的基盤の形成に励むとともに、学生にとっての新たな体験や未知の環境に遭遇する機会の多様化と増大に努め、学生の自律的成長を促す仕組みの導入が目論まれている。評価体系もこうした状況と市の方針とを踏まえ再編整理された。

評価委員会の評価結果は、大学による自己評価と比較して 18 の小項目のうち評価委員会による評価がアップした項目は 3 で、ダウンした項目が 2 であった。大項目については、7 項目のうちアップとダウンがそれぞれ 1 項目ずつあった。この差は、第 2 期中期計画に対する認識の差でもある。

「社会の趨勢を先取りした教育」内容を実現することは極めて困難なことであり、今期はまず低学年から学部の枠を越えた「全学共通教育」を実現し、第 1 期をかけて整備してきた「CALL 英語集中」等の英語教育と「いちだい知のトライアスロン」を加え教育内容の厚みが増してきた。国際、情報、芸術を志す異質な新生にまず共通の基盤と交流の契機が植え付けられ、さらに、第 2 外国語教育が計画どおりに整備され根付くならば、仕組みとしてはこの項目はほぼ完成であろう。第 2 期全体をかけてこれらの整備と充実を期待したい。

これに対して、学部教育と大学院教育のカリキュラム体系は、「国際」と「情報」では未だ構想段階にあるというべきで、カリキュラム内容にまで落とし込むには第 2 期全体が必要であろう。一方、「特色ある教育内容の充実」は第 1 期からの取組が全面的に開花し、連携を通した活発な「交流」により、新たな「学の地平」が拓かれてきた。この項目は「S」（質・量双方において年度計画を上回って実施されている。）である。

第 1 期通期で「B」評価であった大項目の「研究」は、今回見違えるような成果を挙げた。科学研究費の確保は過去最高の実績を残し、また、学部を越えた教員・学生の共同研究、地域社会との共同活動、内外研究者を交えた平和学の探求等は、期待以上の成果を挙げた。

このような実績の改善や向上は、既に定着している「自己点検評価と情報公開」手法に裏打ちされた教職員各自の弛まぬ^{たゆ}真摯な取組による成果であることは疑う余地がない。第2期で広島市立大学がどのような大学に進化していくか、大いに楽しみである。好調な「学生募集」と「就職」の実績を最終指標として今後も広島市立大学を見守っていききたい。

組織、業務運営等に関する改善事項等について

組織、業務運営等に関し、特に改善を勧告すべき点はない。

公立大学法人広島市立大学の各事業年度における業務実績の評価方法及び基準について

1 法人による自己評価

- (1) 年度計画の記載事項ごとの実施状況を以下の5段階により自己評価し、評価理由と併せ、実績報告書に記載の上評価委員会に提出する。

評価の記号	実施状況の説明
s	質・量双方において年度計画を上回って実施されている。
a	質・量いずれか一方において年度計画を上回って実施されている。ただし、他方において年度計画を下回って実施されている場合を除く。
b	質・量双方において年度計画どおり実施されている。
c	質・量いずれか一方において年度計画を下回って実施されている。ただし、他方において年度計画を上回って実施されている場合は、双方の実施状況を総合的に勘案して「b」とすることができる。
d	質・量双方において年度計画を下回って実施されている。

- (2) 年度計画の小項目及び大項目ごとの自己評価についても(1)と同様とする。

2 評価委員会による評価

(1) 小項目評価

ア 「中期計画の達成に向けて、各事業年度の業務を順調に実施しているかどうか」という観点から、法人による自己評価を踏まえつつ、年度計画の内容の妥当性も含めて、小項目ごとに以下の5段階により評価する。

評価の記号	実施状況の説明
S	質・量双方において年度計画を上回って実施されている。
A	質・量いずれか一方において年度計画を上回って実施されている。ただし、他方において年度計画を下回って実施されている場合を除く。
B	質・量双方において年度計画どおり実施されている。
C	質・量いずれか一方において年度計画を下回って実施されている。ただし、他方において年度計画を上回って実施されている場合は、双方の実施状況を総合的に勘案して「B」とすることができる。
D	質・量双方において年度計画を下回って実施されている。

イ 評価委員会の評価が法人による自己評価と異なる場合は、その理由等を示すものとする。

(2) 大項目評価

小項目評価を踏まえ、大項目ごとに以下の5段階により評価するとともに、特筆すべき事項等があればその旨のコメントを記載する。なお、評価の記号ごとに以下の評点を付す。

評価の記号	実施状況の説明	評点
S	質・量双方において年度計画を上回って実施されている。	5
A	質・量いずれか一方において年度計画を上回って実施されている。ただし、他方において年度計画を下回って実施されている場合を除く。	4
B	質・量双方において年度計画どおり実施されている。	3
C	質・量いずれか一方において年度計画を下回って実施されている。ただし、他方において年度計画を上回って実施されている場合は、双方の実施状況を総合的に勘案して「B」とすることができる。	2
D	質・量双方において年度計画を下回って実施されている。	1

(3) 全体評価

大項目ごとに以下の評価比率を配分し、大項目評価の評点を加重平均（評点×評価比率を合計）した結果を基に評価する。また、法人による実績報告書の記述等を踏まえ、中期計画の実施状況に係るコメントを記載する。

大項目	評価比率
第2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 教育	20%
2 学生の確保と支援	10%
3 研究	15%
4 社会貢献	15%
5 国際交流	10%
第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 業務運営の改善及び効率化等	15%
2 財務内容の改善	15%

評価の基準	評価の記号等	
4.5 < X	S	法人の業務は、中期計画の達成に向けて極めて順調に実施されている。
3.5 < X ≤ 4.5	A	法人の業務は、中期計画の達成に向けて順調に実施されている。
2.5 < X ≤ 3.5	B	法人の業務は、中期計画の達成に向けて概ね順調に実施されている。
1.5 < X ≤ 2.5	C	法人の業務は、中期計画の達成に向けて十分に実施されていない。
X ≤ 1.5	D	法人の業務には、中期計画を達成するために重大な改善事項がある。

※ Xは大項目評価の評点×評価比率の合計

全体評価（評点）

大項目名	評価の記号 (大項目評価)	※1 評点 (α)	評価比率 (β)	$\alpha \times \beta$	評価の記号 (全体評価)
第2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置					
1 教育	A	4	20%	0.8	
2 学生の確保と支援	A	4	10%	0.4	
3 研究	A	4	15%	0.6	
4 社会貢献	A	4	15%	0.6	
5 国際交流	A	4	10%	0.4	
第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置					
1 業務運営の改善及び効率化等	B	3	15%	0.45	
2 財務内容の改善	A	4	15%	0.6	
計				※2 3.85	

※1 「評点」は「評価の記号（大項目評価）」と連動する。S=5点、A=4点、B=3点、C=2点、D=1点

※2 「全体評価の記号」はこの数値（ $\alpha \times \beta$ の計）と連動する。

全体評価の記号	S	A	B	C	D
$\alpha \times \beta$ の計 (=X)	$4.5 < X$	$3.5 < X \leq 4.5$	$2.5 < X \leq 3.5$	$1.5 < X \leq 2.5$	$X \leq 1.5$

項目別評価（総括表）

評価項目	評価の記号
第2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 教育	A
(1) 教育内容の充実	
ア 全学共通教育	A
イ 学部専門教育	B
ウ 大学院教育	B
エ 特色ある教育	S
(2) 教育方法等の改善	B
2 学生の確保と支援	A
(1) 学生の確保	A
(2) 学生への支援	A
3 研究	A
(1) 研究活動の活性化	A
(2) 研究成果の積極的な公開及び還元	B
4 社会貢献	A
(1) 生涯学習ニーズ等への対応	A
(2) 社会との連携の推進	A
5 国際交流	A
(1) 国際交流の推進	S
(2) 日本人学生及び留学生への支援の充実	A
第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 業務運営の改善及び効率化	B
(1) 機動的かつ効率的な運営体制の構築	B
(2) 社会に開かれた大学づくりの推進	A
2 財務内容の改善	A
3 自己点検及び評価	A
4 その他業務運営	C

項目別評価

中期目標	中期計画	平成 28 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
第 2 教育研究等の質の向上に関する目標 1 教育に関する目標	第 2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 教育（大項目）		<p>大項目評価</p> <p>全学共通教育では、3 学部合同ゼミの平成 30 年度開設に向けて具体的な実施方針を決定するとともに、外国語教育の充実に向けた検討を行った。また、「いちだい知のトライアスロン」事業において、映画館での出張講座の充実や基礎演習での本事業の活用に取り組んだ。附属図書館入館者数は引き続き増加しており、第 2 期中期計画に掲げた目標（年間 9 万名）を大きく超える 10 万 5 千名となり、附属図書館を活用した学びの活性化を着実に実現している。</p> <p>教育内容の更なる充実に向け、学生アンケートや最新の技術動向の調査・分析、リメディアル教育や地元企業と連携した新たな教育プログラムの検討などを行った。また、平和学研究科の新設に向けて「大学院平和学研究科設置委員会」を設置し、組織やカリキュラム編成などを集中的に検討し、平成 31 年度の開設へめどを付けた。</p> <p>特色ある教育として、地域に愛着・誇りを持ち、地域に根付いて、その発展に貢献する人材を育成するため、他大学等との連携の下、COC+ 教育プログラムを開始するとともに、平和首長会議との連携による夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」の充実や平和科目の選択必修化を行った。また、国際学生寮を活用した教育プログラムの開発や新しい時代を担うリーダー人材を育成するための「広島市立大学塾」の創設に向けて取り組んだ。</p> <p>加えて、国際連合難民高等弁務官などによる講演会の開催、留学等の自主的な学習活動を促進するためのクォーター制の一部導入に向けた検討、芸術資料館所蔵品の高精細画像の取り込みによるデータベースの質の向上など、教育の質の向上につながる多くの取組を実施し、第 2 期中期計画初年度として大きな成果を挙げた。</p> <p>以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>	a	〔評価理由〕 教育全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A

中期目標	中期計画	平成 28 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>(1) 教育内容の充実</p> <p>各学部及び研究科における質の高い教育を行うとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性をかん養するため、各学部及び研究科の枠を越えた幅広い教育の充実を図る。加えて、地方創生に取り組む「地(知)の拠点大学」として、地域との連携・協働により、多様な環境下での実践的な教育を推進する。</p> <p>また、「国際平和文化都市」を都市像とする本市の設立した公立大学法人が設置する大学として、平和に関する教育を積極的に推進するとともに、グローバル化への対応力を育成するための機会の充実を図る。</p>	<p>(1) 教育内容の充実</p> <p>ア 全学共通教育(小項目)</p> <p>(7) 多様な価値観に触れ、多様な視座・研究アプローチを学ぶため、国際学、情報科学及び芸術学という特色ある学部構成を生かし、必修科目として3学部合同ゼミを開設する。</p> <p>(i) 学生が、読書、映画鑑賞及び美術鑑賞を通じて専門分野を越えた幅広い教養を身に付けられるよう、「いちだい知のトライアスロン」事業のより一層の充実を図る。平成 33 年度までに、「いちだい知のトライアスロン」事業に係る感想レポート及び「おススメコメント(他の学生に本や作品を推薦するという視点で作成するコメントをいう。)」の提出件数を年間 2,000 件(平成 26 年度 1,012 件)にするとともに、附属図書館入館者数を年間 90,000 人(平成 26 年度 84,672 人)にする。</p> <p>(ii) 外国語による実用的・実践的なコミュニケーション能力を向上させるため、授業内容の改善等により、英語及び第 2 外国語教育の充実を図る。</p>	<p>○3 学部合同ゼミの導入に向けた検討</p> <p>○「いちだい知のトライアスロン」事業の充実に向けた検討</p> <p>○ワーキンググループによる英語教育の充実に向けた検討、「CALL 英語集中」等の検証・改善</p> <p>○ワーキンググループによる第 2 外国語教育の充実に向けた検討</p>	<p>小項目評価</p> <p>○3 学部合同ゼミの導入に向けた検討を行い、1 年次の「基礎演習」、「教養演習」、「情報基礎」及び「情報演習」の 4 科目を「3 学部合同ゼミ」(仮称)及び「情報活用基礎」(仮称)の 2 科目に整理・統合し、平成 30 年度から 1 年次前期の必修科目として実施する方針を決定した。平成 29 年度にはワーキンググループを設置し、平成 30 年度の科目開設に向け、講義内容等の詳細について検討を行った上で、マニュアルを制定し、それを基に担当教員の研修会を行うこととしている。</p> <p>「3 学部合同ゼミ」(仮称)では、特徴の異なる 3 学部の学生が少人数クラスで演習を行うことにより、学部の枠を越えた本学ならではの学習集団の形成を図るとともに、レポート作成やプレゼンテーション、ディスカッションなどにより自己表現能力などを養い、加えて、「いちだい知のトライアスロン」事業も活用し、豊かで幅広い教養の修得に取り組むこととしている。</p> <p>また、現在「基礎演習」の内容としているパソコンやネットワークの利活用については、新設する「情報活用基礎」(仮称)において取り上げることとし、効率的に学習効果が挙がるよう検討している。</p> <p>以上のとおり、初年次教育の充実に向けた全学的な議論を行い、従来の演習科目等を再編し特色ある科目の新設、効果的・効率的な教育の実施方針を決定の上、実施に向けて具体的な検討を進め、第 2 期中期計画初年度として大きな成果を挙げた。</p> <p>○読書や映画鑑賞、美術鑑賞を通じて幅広い教養を身に付けさせる</p> <p>「いちだい知のトライアスロン」事業では、新たな出張講座の実施や「基礎演習」において本事業を推奨したことなどにより、感想レポート及びおススメコメントの提出件数が平成 27 年度に比べて 408 件増加した。</p> <p>また、本事業の推進などにより、附属図書館入館者数及び学生への図書貸出冊数が引き続き増加し、学生の附属図書館の積極的な活用が促進された。附属図書館入館者数は、第 2 期中期計画の数値目標 90,000 名を上回る 105,037 名となった。</p> <p>【取組実績：()は平成 27 年度実績】</p> <p>・広島市映像文化ライブラリーに加え、新たに民間映画館における出張講座「講演&映画上映会」を実施した。</p>	a	<p>【評価理由】</p> <p>全学共通教育の充実のための優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○3 学部合同科目の平成 30 年度開設に向けた具体的な準備が、全学的に進められている。</p> <p>○「知のトライアスロン」が第 1 期で定着し、「書評合戦」で成果を挙げている。</p> <p>○外国語教育(英語+第 2 外国語)を強化している。</p> <p>○全学教育の実施については、これまでも随分力を入れてこられた。創意と工夫がみられ、その成果も得られている。</p>	A

中期目標	中期計画	平成28年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<ul style="list-style-type: none"> ・「基礎演習」で本事業のスタートアップコースの説明を行った。情報科学部では平成27年度と同様に本事業を推奨したほか、芸術学部では感想レポート提出届（取組状況を教員に提出させることで読書等の促進を図るもの）を試行的に導入した。また、語学センターでは、附属図書館に整備した教材を活用し、学生がそれぞれの語学能力に応じて英書を多読する「英語多読マラソン」を本事業のウェブシステムを利用して試験的に実施した。 ・学生にとって使いやすく興味を引きやすいものになるよう、本事業のウェブシステムの全面的なリニューアルを行い、平成29年4月から新システムの運用を開始した。 ・本学代表の学生が、「全国大学ビブリオバトル中国Cブロック地区決戦」で優勝し、全国大会に出場した。 ・感想レポート及びおススメコメント提出件数 1,330件（922件） ・附属図書館入館者数 105,037名（97,447名） ・学生への図書貸出冊数 25,590冊（25,076冊） <p>以上のとおり、「いちだい知のトライアスロン」事業を推進し、感想レポート及びおススメコメントの増加などの成果を挙げた。</p> <p>○英語教育の充実に向け、「CALL 英語集中」及び「eラーニング英語」について、リーディングと文法問題の選択肢が出題の都度シャッフルされるようにシステムを改修し、学習効果の更なる向上を図った。</p> <p>また、「英語応用演習」について、ライティング課題の出題方法等に関するガイドラインを制定し、全てのクラスで統一的にライティング指導に取り組めるよう改善した。</p> <p>第2外国語教育の充実に向け、新入生対象の第2外国語ガイダンスについて、学生が英語を含めた外国語科目の履修計画・科目選択をより適切に考えることができるよう、外国語学習の全般的な説明を加えるなど、その内容を充実させた。加えて、学生が第2外国語を適切に選択することができるよう、語学センターウェブサイトの各言語に関する情報提供を充実させた。</p> <p>また、従来、開設クラス数などの都合から情報科学部と芸術学部の学生に限定していた「イタリア語」の履修について、平成29年度から全学部を対象に実施するために、国際学部の学生も履修可能となるよう準備・検討を行った。</p>			

中期目標	中期計画	平成 28 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
学部専門教育では、各学部の理念と専門分野の特色に対応した効果的な専門教育を行う。	<p><u>イ 学部専門教育（小項目）</u></p> <p>学生の多様化に対応するとともに、社会で通用する実践的な能力を身に付けた学生を養成するため、学部専門教育の充実に取り組む。</p> <p>(7) 国際学部においては、専門性と学際性を両立させるため、教育課程の充実及び専門領域認定（国際学部の五つのプログラム科目群のうち、一つの科目群から 36 単位以上を履修した場合、当該プログラム領域を専門に履修したことを認定する制度をいう。）の仕組みの見直しに取り組む。</p> <p>(i) 情報科学部においては、技術の進展に対応できる基礎教育の充実を図るとともに、グローバル人材の育成等を推進する。</p> <p>(ii) 芸術学部においては、創作工房及びスタジオを活用した実習科目の導入等によ</p>	<p>平成 28 年度 年度計画</p>	<p>英語教育及び第 2 外国語教育の充実に向けて、平成 29 年度から「全学共通教育委員会」の専門委員会として、新たに「外国語教育専門委員会」を設置する予定であることから、設置のための準備・検討を行った。</p> <p>以上のとおり、英語教育及び第 2 外国語教育の充実に向けて多数の取組を積極的に実施した。</p> <p>以上のように、全学共通教育内容の充実に大きく貢献する優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
			<p><u>小項目評価</u></p> <p>○国際学部では、特色である専門性と学際性との両立を図り、教育内容を更に充実させるための検討を行った。</p> <p>専門領域認定について、学生アンケートの結果を情報共有するとともに、「専門演習」（3 年次演習科目）・「卒論演習」（4 年次演習科目）のプログラム別の分布等に関する分析を行った。</p> <p>その結果、専門領域認定については、当初の 7 割強からここ数年は 5 割程度と漸減していること、特定のプログラムに認定の偏りがあること、学部生は「専門演習」や卒業論文のテーマを自身の専門分野と認識する傾向が強いこと、就職のための活用という観点からは十分機能していないことなどの課題が明らかとなった。そのため、専門領域認定を学生の学習意欲向上につなげる観点から、卒業論文と専門領域認定とを関連付ける方向で改革することを検討することとした。</p> <p>○情報科学部では、技術の進展に対応することができる基礎教育の充実に向け、「新技術対応カリキュラム検討・評価委員会」を設置し、学科ごとに情報科学分野における最新の技術動向の調査を実施した。</p> <p>技術動向の調査は、第 5 期科学技術基本計画のほか、ビッグデータ・データサイエンス、ヒューマンマシンインタフェース、ロボットビジョンなど、近年注目を集めている技術や新たな応用分野に関して実施した。</p> <p>その結果を基に、最新技術のカリキュラムへの反映について議論し、学部横断的に学ぶ講義、企業との連携による PBL（課題解決型学習）形式の講義、基本情報技術者試験等の資格試験とのリンクなどを検討した。</p> <p>学部教育においては、主にこれらの最新技術の基礎的な部分をカ</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>学部専門教育の充実のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○国際学部では、「専門領域認定」の学生数は漸減している。増加を目指す過程にある。</p> <p>○情報科学部では、「新技術対応カリキュラム検討・評価委員会」を設置し、情報科学分野における最新の技術動向の調査を行っている段階で、これから実施に入るところである。</p> <p>○芸術学部では、マツダ株式会社との協働による「共創ゼミ」という画期的な実践が始まり、これは評価できるが、同学部の全学生を対象にした専門教育とは言い難い。このため、A とは評価し難い。</p> <p>○各学部とも、模索・構想段階から具体化に向けて、踏み出している。</p>	B

中期目標	中期計画	平成 28 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>り、学生の創作活動の幅を広げるための教育内容の充実を図る。</p> <p>(I) 大学教育の質を担保するため、英語、数学等のリメディアル教育（大学教育を受ける前提となる基礎的な知識等を補う教育をいう。）を実施する。</p>	<p>○リメディアル教育の実施に向けた検討</p>	<p>リキュラムに反映させていく予定である。</p> <p>また、医用情報科学科では、「臨床情報医工学プログラム」に係る文部科学省の補助期間（平成 24 年度～平成 28 年度）終了を見据えた教育体制・カリキュラムについての検討を行った。</p> <p>○情報科学部では、情報科学を駆使して活躍するグローバル人材の育成のため、次の取組を実施した。</p> <p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語が苦手な学生を対象として、平成 28 年 9 月に 3 コマ×5 日間の集中英語講習を新たに開催した。講習の前後に実施した TOEIC テストでは、平均約 105 点の大幅な増加が見られた。同講習は平成 29 年 2 月にも開催し、英語教育の充実を図った。 ・過去 5 年間の学生の TOEIC 点数を統計分析したところ、平成 26 年度に 4 年次進級条件として一定以上の TOEIC 点数を獲得することを追加して以降、平均点が約 50 点増加しており、学生の英語能力の底上げにつながった。 ・教員のグローバル人材育成の意欲を高めるため、「グローバル人材育成貢献賞」を新設することとした。 ・西南大学（中国）電子情報工学部と学部間交流の推進に関する覚書を交わした。また、外部資金（日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン））を活用した国際交流推進策として、同大学の学生等を招聘して本学の学生らと共同研究活動を行う計画を立案し、国立研究開発法人科学技術振興機構への申請準備を行った。 ・教員の新規採用条件に「グローバル人材育成の実績を有すること」を追加することとした。 <p>以上のとおり、情報科学部のグローバル人材育成の充実に重点的に取り組み、積極的な取組を多数実施した。</p> <p>○芸術学部では、平成 26 年度にリニューアルした創作工房・スタジオ等の施設・設備を効果的に活用するため、各学科・専攻における領域横断的な使用方法を検討し、試行的な活用に取り組んだ。</p> <p>平成 29 年度から各学科・専攻の実習カリキュラムの中に、施設・設備を活用した領域横断的な課題を取り入れていくこととしたほか、担当教員の機器設備取扱講習への参加を徹底し、各学科・専攻の指導体制を整えた。</p> <p>また、マツダ株式会社との協働により、平成 29 年度から「マツ</p>			

中期目標	中期計画	平成 28 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>ダ・広島市立大学芸術学部共創ゼミ」を開設することとし、ゼミでの教育内容を取りまとめて開講の準備を整えた。同ゼミでは、学年・分野を越えて学生が参加できる教育プログラムを提供し、本学芸術学部ならではの特色ある人材育成を行うこととしている。</p> <p>以上のとおり、創作工房及びスタジオを活用した実習カリキュラムを策定し、また、地元企業と連携した新たな教育プログラムの実施により学生の創作の幅と社会での活躍の可能性を広げる教育の充実を図った。</p> <p>○学生の多様化に対応し、大学教育の質を担保するため、リメディアル教育の実施に向けた検討を行った。</p> <p>教員を対象としたアンケート調査などを行ってリメディアル教育の実施案を策定し、平成 29 年度前期から、英語・数学についてリメディアル教育を試行実施することとした。</p> <p>また、リメディアル教育などの取組を効果的かつ効率的に実施するため、全学横断的な組織として「総合教育センター」（仮称）の設置に向けた検討を行った。</p> <p>以上のとおり、リメディアル教育の実施に向けた検討を行い、平成 29 年度からの試行実施を決定し、計画を上回る優れた成果を挙げた。</p> <p>以上のように、学部専門教育内容の充実に大きく貢献する優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
<p>大学院教育では、国際学、情報科学、芸術学及び平和学の特色ある研究科及び研究所の構成を生かした個性的な教育を実施し、高度な知識を身に付けさせるとともに、自己の能力を発揮して課題に対応でき、国際社会及び地域の発展に貢献で</p>	<p><u>ウ 大学院教育（小項目）</u></p> <p>学生の多様化に対応するとともに、専門分野において優れた研究能力と実践的スキルを身に付けた学生を養成するため、大学院教育の充実に取り組む。</p> <p>(7) 大学院に平和学研究科を新設する。</p> <p>(イ) 国際学研究科においては、文系高度実務者養成の</p>	<p>○平和学研究科の新設に向けた設立準備委員会の設置、カリキュラム及び教員人事等の検討</p> <p>○文系高度実務者養成のための教育の実施に係</p>	<p><u>小項目評価</u></p> <p>○「大学院平和学研究科設置委員会」及び「カリキュラム編成ワーキンググループ」を設置し、平成 31 年度の平和学研究科の新設に向け、研究科の組織、カリキュラム編成及び専任教員の採用などに関する検討を行い、平成 29 年 2 月には、同研究科の構想案をまとめた上で、文部科学省へ今後の事務手続などについて確認した。</p> <p>以上のとおり、平和学研究科の新設に向けた検討に集中的に取り組み、平成 31 年度開設のめどを付け、第 2 期中期計画初年度として大きな成果を挙げた。</p> <p>○国際学研究科では、教育者や研究者などの育成に加え、高い知的能力を実務でも生かすことができる人材育成を目指す観点から、教育内容の充実に向けた検討を行った。その結果、ニーズの高ま</p>	a	<p>【評価理由】</p> <p>大学院教育の充実のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>【コメント】</p> <p>○国際学研究科と芸術学研究科は、新たな取組を始めている。</p> <p>○情報科学研究科は、「専門教育課程」改革のために実施している検討内容と大差がない。</p> <p>○情報科学研究科は、「新技術対応カリキュラム検討・評価委</p>	B

中期目標	中期計画	平成 28 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>きる研究者及び高度人材を養成する。</p>	<p>ための教育を実施する。</p> <p>(ウ) 情報科学研究科においては、社会のニーズを教育へ適切に反映するとともに、社会の変化に対応した人材育成のための教育内容の充実を図る。</p> <p>(イ) 芸術学研究科においては、学生の創作活動の幅を広げるための領域横断的な教育に取り組むとともに、地域展開型の芸術プロジェクトへの参加等による実践的な教育を推進する。</p> <p>(オ) 国際学、情報科学、芸術学及び平和学の特色ある研究科及び研究所の構成を生かした科目の新設等により、学際的な教育を推進する。</p>	<p>る検討</p> <p>○情報科学分野における技術動向の調査</p> <p>○領域横断的な教育等の検討、地域展開型の芸術プロジェクトへの参加促進</p>	<p>る環境問題の解決に取り組む実務家や高度な能力を身に付けた教員の養成に資する観点から、平成 29 年度に、経営学関連科目として「環境経済学」を、専修免許状関連科目として「Cross-cultural Psychology and Communication」を新設することとした。</p> <p>また、今後の大学院教育の方向性として、国際学研究科の特徴である国際性と学際性とをいかしながら、多言語・多文化対応が可能な人材や実践的なプロジェクト・マネジメント能力などを身に付けた人材の育成について検討し、平成 29 年度から、より具体的な検討を行うこととした。加えて、大学院生に、既存の学問の延長線に捉われない新しい考え方や新たな社会を構想する力を身に付けさせるための方策を検討することとした。</p> <p>○情報科学研究科では、技術の進展に対応することができる基礎教育の充実に向け、「新技術対応カリキュラム検討・評価委員会」を設置し、専攻ごとに情報科学分野における最新の技術動向の調査を実施した。</p> <p>技術動向の調査は、第 5 期科学技術基本計画のほか、ビッグデータ・データサイエンス、ヒューマンマシンインタフェース、ロボットビジョンなど、近年注目を集めている技術や新たな応用分野に関して実施した。</p> <p>その結果を基に、最新技術のカリキュラムへの反映について議論し、研究科横断的に学ぶ講義、企業との連携による PBL（課題解決型学習）形式の講義、基本情報技術者試験等の資格試験とのリンクなどを検討した。</p> <p>大学院教育においては、これらの最新技術の発展的な部分をカリキュラムに反映させていく予定である。</p> <p>○芸術学研究科では、大学院生の視野を広げ、専門分野にとどまらない幅のある創作活動を行う能力を育てるため、各研究分野が行う講評会、成果発表会、特別講義などを公開し、領域横断的な学習の場を提供することとした。平成 29 年度に参加・聴講可能な講評会等のリストを作成して大学院生へ情報提供し、積極的な参加を促した。</p> <p>また、大学院生の領域横断的な研究活動を促進するため、大学院生の専門領域外の研究室からも副指導教員を選ぶことができるように改め、多角的な指導体制を充実させた。さらに、芸術と情報科学とを融合した本学ならではの研究領域を活性化するため、</p>		<p>員会」を設置し、技術の進展に対応できる基礎教育の充実に向けたカリキュラムを検討する段階である。</p> <p>○芸術学研究科は、「学生の視野を広げ、専門分野にとどまらない幅のある創作活動を行う能力を育てるため」の様々な試みをされていることに敬意を表すが、一方で、芸術の専門分野それぞれの教育の深化への努力への言及が不足している。</p> <p>○平和学研究科は、まだ設置準備に必要な事務手続について確認したところであり、教育内容、学位審査等の重要事項には手がついていない。</p> <p>○平和学研究科は、「研究科設置委員会」の設立と「カリキュラム」編成の WG の活動が始まり、文部科学省に提出する設置計画等を作成している段階である。</p>	

中期目標	中期計画	平成28年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>新たな科目の開講や芸術学研究科及び情報科学研究科の教員が所属の枠を越えて相互に指導する方法などの検討を行った。</p> <p>加えて、地域展開型の芸術プロジェクトへの大学院生の積極的な参加を促し、領域横断的な教育を推進した。</p> <p>香川県小豆島町との連携による「瀬戸内国際芸術祭 2016」への作品出展においては、大規模作品の制作に当たり積極的な協力及び参加を呼び掛けたことで、芸術学研究科の大学院生に加え、情報科学部の学部生もスタッフとして参加するなど、アートプロジェクトを通じて研究科・学年・専門分野の枠を越えた横断的な教育を実践し、学生の協働性を養い、芸術の社会的役割を認識させることにつながった。そのほか、「対馬アートファンタジア 2016」（長崎県対馬市）、「えんこうさん 2017」（猿猴橋の復元を祝うイベント、広島市）、「基町プロジェクト」（広島市）などをはじめ、多数の地域展開型の芸術プロジェクトの出展・実施により領域横断的な教育に取り組んだ。</p> <p>以上のとおり、領域横断的な教育の充実に向けて取り組むとともに、地域展開型の芸術プロジェクトを通じた実践的な教育を多数実施した。</p> <p>以上のように、専門分野において優れた研究能力と実践的な技能を身に付けた学生の育成を図るため、大学院教育内容の充実について優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
	<p>エ 特色ある教育（小項目）</p> <p>(7) 豊かな人間性と国際性を身に付けた人材を育成するため、国際学生寮を活用した教育プログラムの開発・実施に取り組む。</p> <p>(イ) 社会に貢献するリーダー人材を育成するため、少数の学生を対象に課外教育プログラムを実施する「広島市立大学塾」（仮称）を創設する。</p> <p>(ウ) 地方創生に取り組む「地（知）の拠点大学」として、</p>	<p>○国際学生寮を活用した教育プログラムの開発に向けた検討</p> <p>○プログラム内容の検討、塾長の人選等実施体制の整備</p> <p>○COC+教育プログラム（1年次対象）の実施</p>	<p>小項目評価</p> <p>○平成30年度の国際学生寮の開寮に向け、交流プログラム及び学生役職者の配置や事前教育についての検討を行った。平成29年2月には、リーダーシップを執りながら日常的に寮生のサポートを行う学生役職者の基本的な業務内容や、国際学生寮運営体制の概要を決定した。</p> <p>以上のとおり、特色ある国際学生寮の開寮に向けて具体的に教育プログラム等の検討を実施した。</p> <p>○「広島市立大学塾」について、教育プログラム等の検討及び実施体制の整備を行い、早期創設を具体化した。</p> <p>責任者である塾長に学長を、また、教育プログラムの企画・実施等を行う副塾長に特任教授を充てることとし、特任教授の新規採用人事を行い平成29年度中の塾創設に向けた実施体制を整備した。</p>	a	<p>【評価理由】</p> <p>特色ある教育の充実について特に優れた取組を実施したと認められることから、「S」と評価した。</p> <p>【コメント】</p> <p>○COC+の活発な活動は評価される。「広島市立大学塾」の副塾長が着任し、本格的な活動が期待される。</p> <p>○国際社会及び地域との連携の形態は従来の個別的枠組みを離れ、新たな「連携による学習」とでもいうべき「学の地</p>	S

中期目標	中期計画	平成28年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>地域に愛着・誇りを持ち、その発展に貢献する人材を育成するための教育カリキュラムの充実を図る。</p> <p>(イ) 情報科学部及び情報科学研究科においては、他大学、医療機関、企業等学外機関との連携を推進し、情報科学、医学及び工学の知識を有した優秀な人材の育成を図る。</p> <p>(ロ) 夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」の講義内容等のより一層の充実を図る。</p> <p>(ハ) 平和科目の必修化等により、平和関連教育の充実を図る。</p> <p>(ニ) 学生が世界又は地域で活躍する人材と交流する機会の充実を図るため、外部講師を招いた講演会、特別講義等の開催に取り組む。</p> <p>(ヒ) 学生の成長につながる地域での取組へ学生の参加を促す。</p>	<p>○臨床情報医工学プログラム支援終了後の運営方針等に関する検討、医用情報科学分野におけるカリキュラムの再編</p> <p>○夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」継続の中での課題の抽出及び改善案の作成</p> <p>○平和関連科目の選択必修化の実施、平和関連教育の充実に向けた検討</p> <p>○外部講師を招いた講演会や特別講義等の開催</p> <p>○地域での取組促進に向けた課題の洗い出しや整理等</p>	<p>【教育プログラム案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年10月から1年間のプログラムとして実施 ・原則として週1回、講義、講話、ディスカッションなどを行う定期プログラムを実施 ・基礎的な地方公共団体である広島市と連携し、貧困など社会の問題を正面から捉える機会を提供 ・休業期間中に視察体験プログラムを実施 ・「いちだいの知のトライアスロン」事業のトライアスロンコースに参加 <p>○地域に愛着・誇りを持ち、地域に根付いて、その発展に貢献する人材を育成するため、COC+教育プログラムを開始した。前期には「広島の観光学」（新設）、「創作と人間」及び「NPO論」を、後期には「ひろしま論」及び「広島の産業と技術」を実施し、多数の学生が受講した。</p> <p>新設の「広島の観光学」では、担当教員が事業協働地域内の25の地方公共団体全てを現地調査の上、地域観光の最新の取組や地域資源の魅力などを織り込んだ科目内容を構築した。</p> <p>【各科目の履修者数（1年次生）】</p> <p>「広島の観光学」56名、「創作と人間」124名、「NPO論」32名、「ひろしま論」229名、「広島の産業と技術」282名</p> <p>また、平成29年度に向けて、次のとおりプログラムの充実に係る検討・準備を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度に新設する「地域課題演習」（3学部の学生が合同で地域に出向き学習する実践的な科目）の実施方針を決定した上、「瀬戸内海の水産と魚の楽しみ方を知る」など、10テーマの演習課題を設定し、正副担当教員21名の体制を整え、担当教員会議の開催、実施マニュアルの制定など、実施に向けた諸準備を行った。 ・平成29年度に新設する「地域再生論入門」について、地域再生に関する優良事例の調査を行い、中山間地域と都市部の取組及び両者が近接する魅力等を内容とした講義を準備した。 ・平成29年1月に県内9大学等と協定を締結し、平成29年度から地域志向科目の単位互換を開始することとした（同年度は全17科目）。 ・既存の9科目を新たにCOC+教育プログラムに位置付け、学部 		<p>平」を切り開きつつある。</p>	

中期目標	中期計画	平成 28 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>専門教育における地域志向科目を充実させた。</p> <p>以上のとおり、COC+教育プログラムを開始するとともに、平成 29 年度に向けて万全の準備を整えた。</p> <p>○情報科学部及び情報科学研究科では、「臨床情報医工学プログラム」に係る文部科学省の補助期間（平成 24 年度～平成 28 年度）が終了することに伴い、平成 29 年度以降の運営方針について検討を行うとともに、本プログラムで得られた成果及び知見のカリキュラムへの反映などに取り組んだ。</p> <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムの継続実施を連携大学と合意し、同等の教育内容を当面維持・継続することを決定した。また、地域の中核病院との協議を行った。 ・学部生 56 名、大学院生 2 名が本プログラムを受講し、実習やインターンシップなどを行った。 ・本学が代表校となり申請した「ひろしま医工学スクール」が広島県の「大学連携による新たな教育プログラム開発・実施事業」に採択され、ウェブサイトによる予習、著名な研究者による講演、プログラミング実習などを実施した。「ひろしま医工学スクール」は、本プログラムへの融合を図り、毎年開催することを目指している。 ・本プログラムの成果をカリキュラムへ反映させるため、平成 29 年度から、医用情報科学科では「医用情報科学概論」を選択科目に設定し、また、医用情報科学専攻では「計算解剖学特論」等の 4 科目を新設することとした。加えて、平成 28 年度の医用情報科学専攻の設置に対応した学部カリキュラムの再編を行い、平成 29 年度の実施に向けて取り組んだ。 <p>以上のとおり、医用情報科学科及び医用情報科学専攻の教育体制・カリキュラムの充実を図るとともに、新たな補助金を獲得し、他大学との連携の更なる発展に取り組んで特色ある人材育成に成果を挙げた。</p> <p>○夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」について、これまでの継続的な検証・改善に基づき、41 名の参加者に対し、学内外の講師による専門的かつ多彩な講義など内容の充実した講座を提供した。</p> <p>平成 28 年度から、平和首長会議の「青少年『平和と交流』支援事業」の一つに位置付けて実施し、同会議の加盟都市を通じて多</p>			

中期目標	中期計画	平成28年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>数の応募があり、海外からの応募者数は平成27年度の49名から平成28年度は101名に倍増した。また同時に参加者の意識や理解の質も向上し、講義やディスカッションの活性化など本事業の質的向上に大きな成果を挙げた。</p> <p>平成29年度に向け、参加者アンケート結果や平和首長会議事務局との協議などにより、内容充実に向けて取り組んだ。</p> <p>以上のとおり、平和首長会議との連携により事業の質的な向上を実現した。</p> <p>○平和関連教育を充実させるため、平成28年度入学生から総合共通科目区分の「広島・平和科目」を「広島科目」と「平和科目」とに分離し、平和科目の選択必修化を実施した。</p> <p>また、平成29年度から広島平和研究所教員によるオムニバス形式の科目「国際化時代の平和」を新設し、平和科目を4科目から5科目に拡充することとした。</p> <p>○学生が世界又は地域で活躍する人材と交流する機会の充実を図るため、国際連合難民高等弁務官をはじめ、各分野における注目度の高い人物を講師として迎え、内容の充実した講演会等を多数開催した。</p> <p>○市大生チャレンジ事業の実施など、学生の地域での実践的な活動を通じた能動的な学びを支援した。</p> <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市大生チャレンジ事業により、学生の地域での活動の支援を行い、平和記念式典に参加する来訪者のための臨時キャンプサイトの運営（ヒロシマピースキャンプ）、アートプロジェクトなど6件の事業を実施した。 ・自治会・町内会に対してニーズを調査するとともに、広島市消防局と連携し、学生の消防団への積極的な加入を促した。 ・広島市高取北・安西地域包括支援センターと連携し、課外活動団体と高齢者とのマッチングを行い、落語会、交流、施設見学などを実施した。 ・各学部・研究科においては、社会連携プロジェクト、自主プロジェクト演習、地域展開型の芸術プロジェクトなどを通じ、学生の地域での活動を促進した。 <p>以上のように、国際社会及び地域の第一線等で活躍する人材の育成、平和関連教育など特色ある教育内容の充実に大きく貢献する優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			

中期目標	中期計画	平成 28 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>(2) 教育方法等の改善 各学部及び研究科の教育目標を実現し、学生にとって魅力ある教育を提供するため、授業内容及び授業方法の改善を図るとともに、必要な教育環境を整備する。</p> <p>また、学生が自主的かつ主体的に学習に取り組むことができるよう、学習環境を整備する。</p>	<p>(2) 教育方法等の改善（小項目）</p> <p>ア 教育効果の向上及び短期留学、インターンシップ、ボランティア活動等学外での学びの活性化のため、クォーター制の一部導入に取り組む。</p> <p>イ 学生の学びを能動的かつ自律的なものにするための教育を推進する。</p> <p>ウ GPA (Grade Point Average : 履修科目ごとの成績に評点を付けて全科目の平均値を算出する成績評価システムをいう。) の分析・活用等により、教育内容及び教育方法の改善に取り組む。</p> <p>エ 生涯学習、リメディアル教育等を効果的に実施するため、「総合教育センター」（仮称）の設置に向けて取り組む。</p> <p>オ 芸術資料館所蔵品のデータベース化を推進するとともに、所蔵品の多様な活用を図る。</p>	<p>○クォーター制の一部導入に向けた検討</p> <p>○組織体制、所管業務等の検討</p> <p>○高精細記録の実施及びデータベースの充実に必要な項目の洗い出し、所蔵品の活用に向けた検討</p>	<p><u>小項目評価</u></p> <p>○学生が海外留学やインターンシップなどの自主的な学習活動を行いやすい環境を整備するとともに、短期間で集中的な教育を行うことによる学習効果の向上などを目的に、クォーター制（4 学期制）の一部導入に向けた検討を行った。</p> <p>教務委員会内に編成した検討チームにおいて、先行事例の研究、時間割のシミュレーション、導入効果の検討、導入に向けた教員からの意見収集等を行った。検討結果を基に、平成 30 年度からの実施に向けた骨子案を作成した。</p> <p>○多様な学生の入学増加等に対応するリメディアル教育や国際学生寮等における課外教育プログラムなど、従来の学部・研究科、附属施設等の既存の組織の枠組みを越えた取組を効果的かつ効率的に実施するため、全学横断的な組織として「総合教育センター」（仮称）の設置に向けた検討を行い、設置構想案を作成した。今後の教育活動の展開において重要な役割を担う組織となることから、引き続き慎重に検討を進めることとしている。</p> <p>○芸術資料館の所蔵品やその所蔵品の高精細画像を教育や企画展等で有効活用するため、版画、油絵、現代表現などの所蔵品 87 点を、フォトスタジオにおいて 8,000 万画素のデジタル高精細解像度で撮影し、所蔵品のデータベース化及びデータベースの質的向上を推進するとともに、データベースの検索機能の向上のため、所蔵品の検索に必要なキーワードの書出しを行った。</p> <p>また、所蔵品の更なる有効活用に向け、学外への貸出しや学内展示の拡充、学生からの買上作品・古典模写作品等の資料集の作成を検討した。</p> <p>その上で、平成 29 年度から学内の作品展示場所を拡充し、絵画や彫刻・工芸等の所蔵品及び高精細画像を展示して芸術学部を有する本学ならではの芸術作品にあふれるキャンパス環境を整備する方針を決定した。</p> <p>以上のとおり、芸術資料館所蔵品の高精細画像の取り込みによるデータベースの質の向上に取り組むとともに、所蔵品の有効活用を図り、学生等が日常的に芸術作品に触れる機会を増やすことで、本学ならではの環境整備や人材育成に資する取組を推進した。</p> <p>以上のように、教育方法等の改善について計画に掲げる取組を着</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>教育方法等の改善のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○前項に係る教育方法の改善が中心であり、二重カウントの可能性もあるが、学生と教職員が全学的に取り組み、励んでいる点に感動を覚える。</p> <p>○検討段階にとどまっている事業が多く、実際に実施するまでは高い評価とするべきではない。</p>	B

中期目標	中期計画	平成28年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
2 学生の確保及び支援に関する目標	2 学生の確保と支援（大項目）					
			<p>実に実施したことから、「b」と評価した。</p>			
(1) 学生の確保 受験生の動向を踏まえた効果的な入試広報を展開するとともに、国内外からの意欲のある優秀な学生の確保に向けた取組を積極的に進める。	(1) 学生の確保（小項目） ア 教育内容の充実等により受験生への魅力を高め、アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）に応じた入学者選抜を実施することにより、意欲のある優秀な学生を確保する。 イ 長期履修制度、海外学術交流協定大学推薦入試制度等を活用し、国内外から意欲のある優秀な大学院生の受け入れを行う。	○大学入学者選抜改革に向けた検討 ○意欲のある優秀な大学院生の受け入れに向けた検討	<p>大項目評価</p> <p>大学入学者選抜改革などに的確に対応するとともに、教育の質の一層の向上に向け、高大接続改革の全学的な検討組織を設置し、検討を進めた。また、本学の魅力を受験生等に分かりやすく伝えるため、「広島市立大学広報戦略」を策定し、多様なメディアの活用などにより積極的に広報活動を展開した。さらに、各学部等において、海外留学制度のPRや全国の進学相談会等への教員派遣、大学院生を獲得するためのガイダンスの開催などに取り組むとともに、海外学術交流協定大学からの推薦入試制度の導入に関する検討などを行った。</p> <p>学生会館売店、書店及び画材店を一体的にリニューアルし、長年の懸案であった売店のコンビニ化を実現して学生の利便性を格段に向上させた。また、ライブラリー・アシスタント制度や学生ランゲージセンター制度の導入など、各附属施設において学生と協働した学習環境や学習支援体制の充実に取り組んだ。</p> <p>就職・キャリア形成支援については、インターンシップ受入企業の開拓などにより実践的な経験を通じた学生のキャリア形成を支援し、インターンシップ参加学生数は第2期中期計画の数値目標と同数の63名まで増加した。また、新たに「OBOG交流会」を開催して学生・教員と卒業生との活発な交流を図った。</p> <p>以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>学生の確保と支援について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A
			<p>小項目評価</p> <p>○平成32年度からの「大学入学共通テスト」（仮称）の実施など、高大接続改革に的確に対応して教育の質を一層向上させるため、全学的な検討組織である「高大接続改革全体会議」及び「高大接続改革ワーキンググループ」を設置するとともに、これらの諸会議や各学部における検討を実施した。</p> <p>「高大接続改革ワーキンググループ」では、各学部のカリキュラムや卒業要件、学生の休学・退学状況、大学入試センター試験と個別学力検査等の実施状況などについて検証を行うとともに、新しい入学者選抜方法などを検討し、本学における高大接続改革のポイントを取りまとめた中間報告書を作成した。</p> <p>各学部においては、入試問題の分析、外部講師を招いた研修会の開催、三つのポリシー（卒業認定・学位授与の方針、教育課程編</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>学生の確保について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○広報内容に関しては見直すべき事項もあるが、多様なメディアを通じて、既に活動を開始している。</p> <p>○この課題を前面に立てることは、興味、関心が多様化する現代社会では、特に大切である。本学は、そのような学生</p>	A

中期目標	中期計画	平成28年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	ウ 学部の特徴・魅力を受験生及び保護者に分かりやすく伝える広報、地域性を考慮した戦略的広報に取り組む。	○広報コンテンツの作成及び発信、ワーキンググループでの広報戦略の検討	<p>成・実施の方針及び入学者受入れの方針)の検証などを行った。また、全教職員を対象に、高大接続改革についての学内説明会や外部講師によるFD・SD研修会を開催し、教職員の高大接続改革に関する意識の向上を図った。</p> <p>以上のとおり、高大接続改革に対応し、意欲のある優秀な学生の確保に向けて全学的に質の高い充実した検討を実施した。</p> <p>○意欲のある優秀な大学院生の受入れに向け、次のとおり取組を行った。</p> <p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際学研究科では、内部進学促進のための大学院ガイダンスを実施するとともに、学外からの進学者を確保するため、平成29年度以降はガイダンスの開催についてウェブサイトにより対外的に周知することとした。 ・情報科学研究科では、早期卒業制度や推薦入試制度の活用、外部資金の獲得などによる大学院生の経済負担の軽減などについての検討を行った。加えて、同研究科の国際化推進のため、海外学術交流協定大学からの推薦入試制度の創設に向けた検討を行うとともに、西南大学から推薦のあった学生1名を平成29年度から国費外国人留学生として受け入れることとした。 ・芸術学研究科では、大学院生の中間研究成果発表、最終研究成果発表及び博士後期課程本審査作品展等における作品展示の公開などにより、学部生に大学院進学の意識付けを行ったほか、研究分野ごとに進学説明会を開催した。学外に対しては、ウェブサイトで大学院生の修了制作優秀作品の写真及び教員による評価を公開し、同研究科の教育方針、研究レベルを示し、外部からの志願者の獲得に努めた。 ・海外からの教育実習生の受入れについて海外学術交流協定大学と協議を行い、平成29年度からオルレアン大学(フランス)の大学院生を教育実習生(外国人に対するフランス語教育の実習生)として受け入れることを決定した。 <p>○学部の特徴・魅力を受験生及び保護者に分かりやすく伝える広報等を推進するため、次のとおり取り組んだ。</p> <p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『「地域」、『世界』への情報発信』、『「分かりやすさ」、『届きやすさ』の改善』、『「インナーブランディング」の三つの重点項 		<p>を惹き付ける十分な学習環境と実績を備えている。</p> <p>○博士後期課程においては、本学だけではなく日本全体でも志願者が減少している。これは産業界も含めた全国的な問題である。</p>	

中期目標	中期計画	平成28年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>目に取り組むことを掲げた「広島市立大学広報戦略」を策定し、同戦略に基づいて一層積極的に広報活動を展開していくこととした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報コンテンツの作成及び発信については、大学案内や広報誌、ウェブサイトに加え、新たにLINEによるダイレクトな情報発信や Google ストリートビューによる大学キャンパスの紹介など、多様なメディアの活用を図った。また、学生広報サポーター等による「分かりやすい研究紹介」や紙屋町シャレオへのポスター掲示など、受験生や保護者向けに対象者を意識した広報を行うとともに、国内外からの観光客も対象にした JR 宮島口駅デジタルサイネージでの CM 動画放映や路面電車窓上額面へのポスター掲示を行うこととし、各広報素材の作成に着手した。さらに、ウェブサイトや広島駅南口地下広場、各種イベント等で放映している大学紹介ビデオについて、全面リニューアルに着手した。 ・ 国際学部では、学部の特色である交換留学、短期留学、海外インターンシップなどの様々な海外留学制度を PR するため、オープンキャンパスにおいて、個別相談ブースへの留学経験学生の配置、「経験者が語る海外留学」というイベントの実施など、学生の海外留学体験を受験生に直接伝える機会を充実させた。また、学生の海外留学体験を集中的に情報発信するウェブサイトの構築に着手した。 ・ 情報科学部では、情報科学部オリジナルサイトのリニューアルに向けた検討を開始した。これと連動して、大学案内のコンテンツリニューアルを進め、インターネットと紙媒体それぞれの特徴を生かした広報戦略を企画した。また、島根県立高等学校2校を訪問し、同学部の教育内容などについて直接説明し、進学者の開拓を図った。 ・ 芸術学部では、全国の進学相談会や芸術科設置高等学校などへ多くの教員を派遣し、同学部の教育内容を教員が直接受験生に伝える積極的な入試広報活動を展開した。 <p>以上のとおり、計画では広報戦略の検討を行うとしていたところ、広報戦略の策定を完了したほか、LINEなどのメディアを活用した広報に着手して計画を上回る実績を挙げた。</p> <p>以上のように、意欲のある優秀な学生の確保について優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			

中期目標	中期計画	平成 28 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>(2) 学生への支援</p> <p>全ての学生が心身ともに健康で充実した大学生活を送ることができるよう、学習環境、生活環境、健康管理、課外活動等様々な面で支援の充実を図る。</p> <p>また、学生自らが、社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現するための力を身に付けるよう、また、やりがいを持って働く生き方について考え、行動できるよう、入学時からキャリア形成に関する支援の充実を図るとともに、地元企業との連携強化等により、就職支援の充実を図る。</p>	<p>(2) 学生への支援 (小項目)</p> <p>ア 新入生の大学への適応が円滑に進むよう、オリエンテーション等の充実を図る。</p> <p>イ 教職員によるきめ細かい支援・相談等の実施、学生同士の助言等が行える環境づくりに取り組む。</p> <p>ウ 各附属施設等の設備、サービス内容の充実、各施設間の連携等により、学習環境及び学習支援体制の整備に取り組む。</p> <p>エ 学生の心身の健康の保持増進を図るため、「健康管理センター」(仮称)の設置に向けて取り組む。</p> <p>オ 卒業生及び地元企業との連携によるセミナーの実施、インターンシップの活用等により、入学時から就職・キャリア形成に向けた支援を充実する。平成 33 年度までに、インターンシップ参加学生数を年間 63 人(平成 27 年度 42 人)にする。</p> <p>カ 学生のクラブ、サークル活動、ボランティア活動等を奨励するとともに、それらを支援するための設備及び制度の充実等を図る。</p> <p>キ RA (Research Assistant</p>	<p>○新入生オリエンテーションの充実に向けた検討</p> <p>○ピア・サポートの運営方法、運営体制の検討</p> <p>○学生との協働事業の実施や外国語学習機会の充実をはじめとした各附属施設等の学習環境及び学習支援体制の整備</p> <p>○インターンシップの推進及びキャリア形成の視点に立ったインターンシップ等の課題の整理</p> <p>○後援会との連携・調整、クラブ及びサークル活動の支援策の検討、ボランティア活動等への参加機運の醸成・他大学の調査</p> <p>○ORA の導入に向けた検討</p>	<p>小項目評価</p> <p>○新入生オリエンテーションの充実に向け、「市大キャンパスウォーキング」の実施に当たり、先輩学生が引率教員の補助と新入生のサポートとを行う試行的な取組を平成 28 年 4 月から行い、より効率的・効果的な実施につながったことから、平成 29 年度も継続して実施することとした。また、各学部におけるオリエンテーション行事を調査し、今後の充実に向けて検討していくこととしている。</p> <p>○第 1 期中期計画期間中に導入した留学生のための学生ボランティアアドバイザー制度に加え、新たなピア・サポート制度として、附属図書館のカウンター業務等を行うライブラリー・アシスタント制度及び語学センターで外国語の学習支援を行う学生ランゲージチューター制度を創設して運用を開始し、学生同士による支援・相談などの体制を充実させた。特に、ライブラリー・アシスタント制度については、導入に併せて附属図書館の開館時間を延長したことで、学生の利便性が向上し附属図書館入館者数の増加にもつながった。</p> <p>○学生との協働事業の実施や外国語学習機会の充実をはじめとした各附属施設等における学習環境及び学習支援体制の整備に取り組んだ。</p> <p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生会館売店、書店及び画材店を一体的にリニューアルし、売店のコンビニ化を行った。コンビニ化により食品や文房具類などの品ぞろえや取扱サービスが著しく充実するとともに、営業時間を 1 時間延長することができた。リニューアル後の平成 28 年 10 月から平成 29 年 3 月までの売店、書店及び画材店の売上金の合計額は、前年同時期に比べて約 7 割増加しており、学生の売店利用に係る利便性を格段に向上させた。 ・附属図書館では、平成 28 年 10 月から、学生との協働事業の一環として、図書館のカウンター業務等を行うライブラリー・アシスタント 6 名を新たに配置し、開館時間を 1 時間延長した。 ・語学センターでは、ランゲージラウンジを活用した課外での外国語学習機会の提供に向け、実施要領を制定し、留学生と日本人学生とが互いの母語を教え合う学生ランゲージチュー 	a	<p>【評価理由】</p> <p>学生への支援について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>【コメント】</p> <p>○学習環境等については一段と整備され、学生の利便性が増した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 28 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	：大学院生が研究の補助を行う制度をいう。)の導入等により、大学院生の経済的支援の充実を図る。		<p>ター制度を創設するとともに、教えた学生と教えてもらいたい学生とをウェブ上でマッチングさせるためのシステムを構築した。また、国際交流推進センターとの連携の一環として、語学センター廊下ギャラリーで「サンフランシスコ交流プログラム写真展」を開催し、国際交流や海外留学への興味・関心の醸成を図った。</p> <p>・情報処理センターでは、情報セキュリティ対策規程の改正等に係る支援を行うとともに、学内ネットワーク接続機器に対する定期的なセキュリティ診断を実施した。また、eduroam（学内で提供する公衆無線 LAN サービスの一つ）について、学内公開サーバー等へのアクセス範囲を拡大し、利便性の向上を図った。</p> <p>以上のとおり、学生の学習環境及び学習支援体制の整備に係る取組を多数実施した。特に、長年の懸案であった売店のコンビニ化は、学生の日常生活支援を著しく充実させる実績であり、サービスの質・量の双方で格段の向上が図られた。</p> <p>○インターンシップ受入企業の開拓などの結果、インターンシップ参加学生数は第 2 期中期計画の数値目標と同数の 63 名まで増加した（平成 27 年度 42 名）。</p> <p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マツダ株式会社との連携により、インターンシップの受入枠を新たに開拓して 13 名の学生を派遣した。 ・キャリア形成・実践科目及び企業インターンシップの現状・課題についての検証を行い、地元企業と本学との連携を図るため、平成 29 年度に地元企業経営者が参画するパネル討論会を開催することとした。 ・インターンシップに参加した学生による報告会の開催日時や周知方法等の改善を図り、インターンシップへの積極的な参加を促した。 ・学生がインターンシップの実習先を選択する際の判断材料にすることができるよう、インターンシップ終了後の学生アンケートや教員の企業訪問の際の報告書の書式の統一に向けた検討を行った。 ・学生・教員と卒業生とのネットワーク作りや就職活動に係る情報交換などを目的に、春季学内合同企業説明会の開催に併せ、新たに本学の卒業生を招いて「OBOG 交流会」を開催し、 			

中期目標	中期計画	平成 28 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>積極的な交流を行うことができた。</p> <p>(参加者(2日間):OBOG 89名、教職員 33名、学生 179名 計 301名)</p> <p>○学生がボランティア活動に関する情報を見付けやすい環境を整備するため、学生が多く通行する学生会館1階にボランティア情報専用掲示板を新設した。</p> <p>また、ボランティア活動に興味がある学生やボランティア活動中の学生が意見交換などを行う「ボランティア・地域活動 つながるはじめるワークショップ」を開催した。</p> <p>○RA制度の導入に向け、他大学における類似制度を調査しながら、非常勤講師等取扱要領改正案及びRA実施要領案の作成などに取り組み、平成29年度以降の導入に向け具体的に検討を行った。</p> <p>また、限られた予算の中で効果的な支援を行うため、入学料の減免などRA制度以外の大学院生への経済的支援策について幅広く検討を行った。</p> <p>以上のように、学習環境等の整備、キャリア形成に関する支援等による学生への支援について優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
<p>3 研究に関する目標</p> <p>教員それぞれの独創性ある研究を推進するとともに、国際学、情報科学、芸術学及び平和学の特色ある学部、研究科及び研究所の構成を生かした横断的な研究、広島平和研究所を軸とした世界的な視点に立った平和研究、地域課題の解決に向けた研究をはじめ、個性的な研究活動及び学内外との研究交流を積極的に展開する。その研究成果を教育に反映さ</p>	<p>3 研究(大項目)</p>		<p>大項目評価</p> <p>本学の特色を生かした新しい分野の研究活動や社会との関わりを意識した研究活動を活性化するため、特定研究費(学内競争的研究資金)の公募種目に「COC+研究費」を追加するとともに、観光を情報の切り口から研究し実学に結び付ける「観光情報学」の構築、芸術と情報科学とを融合した本学ならではの研究領域の活性化に向けた検討などを行った。</p> <p>外部資金の積極的な獲得に取り組み、引き続き外部資金の高い獲得実績を挙げ、科学研究費の獲得額は過去最高を更新し、外部資金の合計額は平成27年度を上回った[外部資金合計282,925千円(平成27年度266,046千円)]。また、今後の更なる外部資金の獲得に向け、外部資金獲得支援制度の整理・新設を行い、「科学研究費獲得支援制度要領」を制定するとともに、全教員を対象とした科学研究費獲得研修会を開催した。</p> <p>各学部等においては、データサイエンスなどの新分野を専門とする教員の採用、研究室ごとの活動状況の調査などにより研究活動の活性化を図るとともに、紀要の発行、シンポジウムの開催、研究公開イベ</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>研究全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成28年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>せるとともに、社会に還元する。</p> <p>また、外部資金の積極的な獲得と活用により、研究の活性化を図る。</p>	<p>(1) <u>研究活動の活性化（小項目）</u></p> <p>ア 国際学、情報科学、芸術学及び平和学の特色ある学部、研究科及び研究所の構成を生かした本学特有の新しい分野の研究活動並びに国際貢献及び地域貢献の視点で社会との関わりを意識した研究活動のより一層の活性化を図る。</p> <p>イ 研究活動を活性化するため、URA（University Research Administrator：研究者とともに研究活動の企画・マネジメント等を行うことにより、研究活動の活性化、研究開発マネジメントの強化等を支える人材をいう。）を導入するとともに、科学研究費をはじめとする外部資金の積極的な獲得に取り組む。平成33年度までに、外部資金を獲得している教員の割合を年間63.8%（平成</p>	<p>○本学の特色を生かした新しい分野の研究活動や社会との関わりを意識した研究活動の活性化に向けた検討</p> <p>○URAの導入に向けた調査・検討、外部資金の積極的な獲得</p>	<p>ントへの出展などを通じて研究成果の公開及び還元に取り組んだ。</p> <p>芸術学部及び芸術学研究科では、地域課題の解決に目を向けた芸術プロジェクトの実施、学内外の作品展示スペースの充実・活用に取り組んだ。</p> <p>広島平和研究所では、学外研究者等の参画を促進し、三つの研究会やフォーラムの開催などにより研究活動の活性化を図った。</p> <p>以上のように、計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>			
			<p>小項目評価</p> <p>○本学の特色を生かした新しい分野の研究活動や社会との関わりを意識した研究活動の活性化のため、次のとおり取り組んだ。</p> <p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定研究費（学内競争的研究資金）の公募種目に「COC+研究費」を追加し、「瀬戸内の観光振興と外国人観光客のインバウンドを目指した地域活性化プロジェクト」など3件を採択し、特色ある研究活動を促進した。 ・情報科学研究科では、観光と情報とを結ぶ新しい学問分野として、「観光情報学」の構築に取り組み、サイクリング旅行者によるブログ投稿記事の自動抽出システムの開発などを行った。 ・芸術と情報科学とを融合した本学ならではの研究領域を活性化するため、「メディアアート技術概論」（仮称）の開講や、芸術学部の卒業制作と情報科学部の卒業論文とを両学部教員が相互に指導する方法などを検討した。 <p>そのほか、各学部・研究科等において、データサイエンスなどの新分野を専門とする教員の採用、地域課題の解決に目を向けた芸術プロジェクトの実施などにより、研究活動の活性化に取り組んだ。</p> <p>○外部資金の積極的な獲得に取り組む、獲得した外部資金を活用して活発な研究活動を実施した。科学研究費の獲得額は過去最高を更新し、外部資金の合計額は平成27年度を上回った。</p> <p>【科学研究費等外部資金獲得実績：（ ）は平成27年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費 申請率68.2%（63.2%）、採択率48.1%（60.8%）、獲得金額 〔間接経費を含む。〕145,938千円（123,890千円） 	b	<p>【評価理由】</p> <p>研究活動の活性化について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>【コメント】</p> <p>○科学研究費等の外部資金の確保、学部を越えた教員、学生の共同研究、COC+等の地域社会と連携する活動、平和研究所を拠点にする平和学の構築など、本学の研究活動は十分に展開されている。</p> <p>○科学研究費をはじめとした外部資金の獲得に過去最高の実績を残した。</p> <p>○申請準備段階の組織的な整備を行った。</p> <p>○学部間の連携も見られる。</p> <p>○研究活動については、非常によく努力していると認められる。</p>	A

中期目標	中期計画	平成28年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>27年度53.8%)にする。</p> <p>ウ 芸術研究の発表活動を促進するため、学内外の作品展示スペースの充実・活用に取り組む。</p> <p>エ 広島平和研究所における研究活動を活性化するため、学外研究者の積極的な参画等を促進する。また、広島に立地する研究所として、核・軍縮等特定のテーマを定めたプロジェクト研究を実施する。</p>	<p>○既存の作品展示スペースの活用促進、作品展示スペースの新たな確保・充実に向けた検討</p> <p>○学外研究者の参画促進及びプロジェクト研究の実施</p>	<p>・受託研究、共同研究、補助金、奨学寄附金 62件 136,987千円(54件 142,156千円)</p> <p>・外部資金合計282,925千円(266,046千円)</p> <p>・外部資金獲得教員率48.9%(53.8%)</p> <p>平成29年度以降の外部資金の更なる獲得に向け、「科学研究費獲得支援制度要領」を制定し、五つの支援制度(アドバイザー制度、事前コメント制度、申請書閲覧制度、メールマガジン配信、学部長等による教員サポート制度)を整理・新設するとともに、科学研究費獲得研修会を開催したほか、各学部等においても外部資金の獲得に向けた研修会や検討を行った。</p> <p>また、URAの導入に関する検討を行った。新たな人材の配置は、IR(学内の様々な情報を収集・分析し、大学業務の質の向上に活用すること。)を担当する人材の配置などとともに、引き続き全学的な視点から検討を行うこととしている。</p> <p>○芸術学部及び芸術学研究科では、研究活動の活性化のため、芸術資料館をはじめとする既存の作品展示スペースの活用促進及び作品展示スペースの新たな確保・充実に取り組んだ。</p> <p>【取組実績】</p> <p>・芸術資料館に学芸員が常駐する体制とし、13の展覧会を開催し、3年連続100日以上の開館日数を達成した。従来の企画展に加え、所蔵品を活用した「潮流」展を開催したほか、オープンキャンパスなどに合わせて展覧会を開催した。また、学生による芸術資料館展示室の使用拡大を検討し、学生の使用マニュアルを制定して、公募・審査を行い、平成29年度に学生による2件の展示を新たに実施することとした。</p> <p>・学内で作品が展示可能なスペースを調査し、平成29年度から作品展示を拡充することとした。</p> <p>・廿日市市宮島町に創作・展示等が可能な宮島教育研究施設「サテライトハウス宮島」を開設した。また、「基町プロジェクト」では、創造・交流拠点「M98<make>」の新設、ショーウィンドウを利用したモトマチ・アートウィンドウの活用などに取り組んだ。加えて、地域住民等と連携し、「大塚シンボル通りづくりプロジェクト」によりキャンパス近隣の市道沿いへの彫刻作品や看板の追加設置などを行った。</p> <p>以上のとおり、作品展示スペースの充実・活用促進に積極的に取り組んだ。特に、作品展示スペースの新たな確保・充実について</p>			

中期目標	中期計画	平成 28 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>検討を行うとしていたところ、平成 28 年度中に新たな作品展示スペースの確保を実現した。</p> <p>○広島平和研究所では、三つの研究会や研究フォーラムの開催などを通じ、国内外から多数の学外研究者等を招聘して研究活動の活性化を図った。</p> <p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・核・軍縮研究会（5 回） 梅林宏道氏（特定非営利活動法人ピースデポ特別顧問、前長崎大学核兵器廃絶研究センター長）「核のリスクに関する調査研究の動向」ほか ・人間の安全保障研究会（6 回） 中内政貴氏（大阪大学大学院国際公共政策研究科准教授）「協調的安全保障機構の影響力に関する考察 - OSCE ミッションを事例として -」ほか ・信頼安全保障醸成措置研究会（4 回） 世宗研究所（韓国）研究会「北東アジア平和協力構想（NAPCI）ネットワークシンポジウム」への参加ほか ・研究フォーラム（5 回） ジョン・ミッチェル氏（明治学院大学国際平和研究所研究員）「枯葉剤－沖縄と米軍基地汚染」ほか ・平成 28 年 2 月に学術交流に関する協定を締結した世宗研究所と連携し、同年 9 月に「北東アジア平和協力構想（NAPCI）2016 広島国際会議」を開催したほか、平成 29 年 3 月に同研究所主催の「2017 年広島日韓関係シンポジウム」に参加した。 <p>また、平成 28 年度から、研究所としての組織的な研究に取り組むことによって広島平和研究所が実施する研究の質を高め、教員による平和研究の成果を地域及び国際社会へ普及させることを目的に、プロジェクト研究を立ち上げて研究を開始した。</p> <p>【平成 28 年度実施プロジェクト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Domestic influences on Myanmar's foreign policy towards China（ミャンマーの対中政策に影響を及ぼす国内要因） ・Long-term nuclear waste storage in the Anthropocene: Pioneering work in Scandinavia（人新世における核廃棄物長期貯蔵－スカンジナビアでの先駆的研究） ・ユーラシアにおける地域主義とガバナンス ・国際人道法・国際人権法等による核・軍縮措置の強化可能性 			

中期目標	中期計画	平成28年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>以上のように、特色ある学部等の構成をいかした研究活動、外部資金の積極的な獲得等による研究活動の活性化について計画に掲げる取組を着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>			
	<p><u>(2) 研究成果の積極的な公開及び還元（小項目）</u></p> <p>論文発表及び出版による研究業績の向上に努める。加えて、叢書の出版、シンポジウム、研究公開イベント、展覧会の開催等により、研究成果を積極的に社会に公開及び還元する。</p>	<p>○叢書の出版、シンポジウムや展覧会の開催等による研究成果の積極的な社会への公開及び還元</p>	<p><u>小項目評価</u></p> <p>○各学部等において、次のとおり研究成果の積極的な公開及び還元に取り組んだ。</p> <p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際学部及び国際学研究科では、11月に紀要「広島国際研究」第22巻を、3月に国際学部叢書第7巻「〈際（さい）〉からの探究：つながりへの途」をそれぞれ刊行し、研究成果の普及を図った。 ・情報科学部及び情報科学研究科では、積極的な論文発表、学会発表に取り組むとともに、公益財団法人ひろしま産業振興機構が主催するマッチングフォーラム、産学連携研究発表会、地域貢献事業発表会などにおいて、研究紹介のポスター展示等に積極的に取り組んだ。また、研究成果の発表やシンポジウム開催の補助など、研究成果の還元の推進につながる制度について検討を行った。 ・芸術学部及び芸術学研究科では、展覧会の開催などにより研究発表活動を促進した。教員による研究発表活動として、個展15件、公募展への出展40件、グループ展への出展107件、口頭発表等23件、プロジェクト研究16件、アートフェア参加4件があった。そのうち49件は学内外の研究費、助成金、受託研究費等を活用した。また、学生による研究発表活動として、個展12件（大学院生）、公募展・コンクールへの出展25件（学部生32名、大学院生36名）、グループ展への出展27件（学部生313名、大学院生154名）があった。 ・広島平和研究所では、講演会、公開講座、シンポジウム等の企画及び実施、出版活動などに取り組んだ。連続市民講座（前期：核開発と国際社会、後期：戦争の非人道性を裁く）、国際シンポジウム（7月、テーマ：危機の東アジアー「核なき世界」に向けて）、研究フォーラム（7月、10月、11月、2月、3月の計5回）を開催するとともに、平成27年度から実施している英語による市民講座（1月・2月、全4回）、大学院生、公務員及びメディア関係者を対象とした「ヒロシマ平和とセミ 	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>研究成果の積極的な公開及び還元のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○芸術学部の活動は活発である。</p>	B

中期目標	中期計画	平成28年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
4 社会貢献に関する目標 教育研究成果を社会に還元するため、社会連携センターを中心に、学外研究機関、企業、NPO、地域コミュニティ等との交流及び連携を積極的に推進する。 また、広島都市圏の「知」の拠点として、提言、施策立案、技術供与等を通じて、地域行政課題の解決及び都市機能の強化に貢献する。 さらに、広く市民に生涯学習の場を提供するため、公開講座の充実等を図る。	4 <u>社会貢献（大項目）</u>		<p>ナー2016」を実施した。また、出版活動としては、8月に同研究所の監修による「なぜ核はなくなるのかⅡ」を出版するとともに、紀要第4号、ニューズレター第19巻第1号及び第2号、HPIブックレット第3巻及び第4巻を刊行した。</p> <p>また、平成30年度の創刊に向け、ハンドブック「アジアの平和と核2019—国際関係の中の核開発とガヴァナンス」（仮題）について、執筆者及び出版社への依頼及び調整を行った。</p> <p>以上のように、研究成果の積極的な公開及び還元について計画に掲げる取組を着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>			
			<p>大項目評価</p> <p>市大英語eラーニング講座や県立広島大学との連携公開講座など、引き続き特色ある多様な公開講座を実施して多数の市民の参加を得た。また、ひろしまコンピュータサイエンス塾、中高生の科学研究実践活動推進プログラムなど、児童及び生徒に対する学習支援・教育活動を展開した。</p> <p>「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」では、他大学・地方公共団体・企業等との連携の下、事業の推進に全学を挙げて取り組んだ。COC+運営部会やCOC+事業協働協議会などの各種会議により円滑な事業運営に努めながら、フォーラムを開催し、これからの地域デザイン^かの在り方について知見を深めるとともに、地方公共団体、企業等での利活用を目的に観光関連データベースの構築に取り組んだ。</p> <p>社会連携センターを窓口とした受託研究・共同研究、社会連携プロジェクト、市大生^かチャレンジ事業の実施などを通じ、行政機関、企業等との連携による研究活動・社会貢献活動等を行った。特に、芸術学部及び芸術学研究科では、「基町プロジェクト」や「広島広域都市圏鳥瞰図^かの制作」をはじめ、内容の充実した芸術プロジェクトを多数実施し、芸術による社会貢献に取り組み、芸術の社会的役割を広く地域に示した。</p> <p>以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>	a	〔評価理由〕 社会貢献全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A

中期目標	中期計画	平成28年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>(1) 生涯学習ニーズ等への対応 (小項目)</p> <p>幼児から社会人まで幅広く市民の生涯学習ニーズ等に対応した公開講座等を開催する。</p>	<p>○高校生、市民、企業の技術者・研究者等を対象にした公開講座等の実施</p>	<p>小項目評価</p> <p>○次のとおり公開講座等を実施した。</p> <p>【開催実績】</p> <p>①県立広島大学との連携公開講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひろしま学を考える (7月開催：延べ受講者数 272名) ・言語を通じて世界を知る (10月開催：延べ受講者数 137名) <p>②国際学部公開講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム復興主義 (過激主義) と中東情勢 (11月開催：受講者数 86名) <p>③情報科学部公開講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生による情報科学自由研究 (7・8月開催：受講者数 41名) ・実践情報科学セミナー (12月開催：延べ受講者数 5名) ・講演会 (11月開催：受講者数 13名) <p>④芸術学部公開講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般向け (日本画、油絵、版画、彫刻、視覚造形、染織造形：7～9月開催：受講者数 100名) ・サマースクール (日本画、油絵、彫刻、デザイン工芸：8月開催：受講者数 93名) ・社会人向け工芸・版画技能講座 (金工、染織、版画：4～1月開催：受講者数 16名) ・社会人向け工芸・版画技能講座夏季特別講座 (金工、染織、版画：受講者数 12名) <p>⑤市大英語 eラーニング講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1期：受講者数 61名、第2期：受講者数 43名、第3期：受講者数 35名 受講者数計 914名 (平成27年度実績：973名) 開催回数計 14回 (平成27年度実績：14回) <p>また、情報科学部では、児童及び生徒を対象とした教育活動として、次の事業に取り組んだ。</p> <p>【取組実績】</p> <p>①ひろしまコンピュータサイエンス塾</p> <p>申込みがあった小学生 78名から 18名を塾生1年生として選抜し、塾生2年生 5名とともに、計6回の講座や企業見学会、成果発表会、特別講義を実施した。また、新たに中学生を対</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>生涯学習ニーズ等への対応について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○成人市民のほかに、小・中・高の多様な世代との連携を図り、計画的に対象世代を拡大している。</p>	A

中期目標	中期計画	平成28年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>象とした2日間の短期集中型プログラミング体験講座を開講し、29名の中学生が参加した。</p> <p>②中高生の科学研究実践活動推進プログラム（国立研究開発法人科学技術振興機構補助事業）</p> <p>広島県教育委員会と連携し、高校生及び高等学校教員の研究活動の支援・助言、研究指導支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島県科学セミナー（6月、7月、1月開催）、高校生234名及び高等学校教員95名が参加。 ・理科研究発表会（11月、12月、2月開催）、高校生198名及び高等学校教員40名が参加。 ・研修会連絡会議（11月、2月）、高等学校教員13名が参加。 <p>③グローバルサイエンスキャンパス（国立研究開発法人科学技術振興機構補助事業）</p> <p>広島大学と連携し、情報分野の研究課題に取り組むジャンプステージの高校生2名を受け入れ、個別に1名ずつの本学教員が研究指導・助言を行った。また、ステップステージの高校生6名を受け入れ、本学の教員6名が研究指導に当たった。</p> <p>④情報オリンピックセミナー「レギオ」講習会</p> <p>特定非営利活動法人情報オリンピック日本委員会との共催により、「レギオ」講習会（国際情報オリンピック予選競技への参加を目指す生徒に対して、プログラミングとアルゴリズムの基礎的なトレーニングを行う講習会）を8月に2日間実施し、高校生4名が参加した。</p> <p>以上のように、公開講座の充実等による市民の生涯学習ニーズ等への対応について優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
	<p>(2) 社会との連携の推進(小項目)</p> <p>ア 「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」を推進し、広島都市圏の活性化につながる教育研究活動を実施することにより、地方創生に貢献する。</p> <p>イ 社会連携センターを窓</p>	<p>○事業協働機関による協議会等の開催、観光関連データベースの整備</p> <p>○受託研究・共同研究等</p>	<p>小項目評価</p> <p>○COC+事業協働協議会等の開催などにより円滑なCOC+事業の実施に取り組んだ。</p> <p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・COC+運営部会を定期的で開催し、事業の実施調整を行った。 ・COC+事業協働協議会を開催し(37機関65名が出席)、平成29年度の事業計画等について協議を行った。また、COC+教育プログラム開発委員会を3回開催し、単位互換などについて検討した。連絡会議を3回開催し、協働研究事業やCOC+事業における教育研究事業の活動拠点として新たに開設した宮島教 	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>社会との連携の推進について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○学部構成の特殊性から、地域産業との連携事業もさることながら、地域社会との連携の推進に特色が発揮されている。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 28 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>口として、広島市をはじめとした行政機関、企業等からの受託研究、共同研究等に積極的に取り組む。</p> <p>ウ 地域社会との連携を通じた地域展開型の芸術プロジェクトを推進し、芸術の社会的有効性を発信する。</p> <p>エ 学生及び教職員の社会貢献活動及び地域との連携事業を支援する。</p>	<p>の実施、展示会開催・出展による研究成果の PR</p> <p>○COC+アートプロジェクトの検討及び実施、地域展開型の芸術プロジェクトの実施</p> <p>○教員及び学生の実施する広島市や地域等との協働事業の支援</p>	<p>育研究施設の活用方法等について協議・報告を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・COC+フォーラムを開催（参加者 174 名）し、大南信也氏（特定非営利活動法人グリーンバレー理事長・徳島大学客員教授）による基調講演や「基町プロジェクト」の事例を基にこれからの地域デザインの在り方について知見を深めた。 ・事業協働地域の様々な観光情報を集積し、事業協働機関である各大学での演習や講義、また、地方公共団体、企業等において利活用することを目的に、観光関連データベースの構築に取り組んだ。当該データベースは、一般的な観光情報のみならず、You Tube やブログなどの SNS 関連データについても登録し、必要な情報を Google マップ上に可視化できることを特徴としている。平成 28 年度には、データベースの試験運用などを実施し、平成 29 年度の公開運用に向けた態勢を整えた。平成 28 年度末時点で約 15 万件のデータ登録が完了している。また、平成 29 年度に開講する「観光情報学」におけるデータベースの実践的な活用についての検討を行った。 <p>以上のとおり、事業協働機関（大学、地方公共団体、企業等 66 機関）との連携の下、COC+の推進に全学を挙げて取り組んだ。特に、観光関連データベースの構築については、観光振興に資する画期的な試みとして取り組んでいる。</p> <p>○総務省の戦略的情報通信研究開発推進事業に採択された「訪日外国人旅行者を対象とした地域情報マイニング技術の研究開発」において、他大学の研究者との連携の下、研究開発を推進するなど、次のとおり受託研究・共同研究等に積極的に取り組み、社会との連携を推進した。</p> <p>【取組実績：（ ）は平成 27 年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受託研究・共同研究：45 件（37 件） 研究費計：77,567 千円（63,457 千円） ・補助金：2 件（3 件） 研究費計：51,238 千円（65,420 千円） ・奨学寄附金：15 件（14 件） 研究費計：8,182 千円（13,279 千円） <p>また、受託研究・共同研究等を推進するため、研究成果の PR、社会連携コーディネーターによる技術相談などを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9 月：産学連携研究発表会 [来場者数約 140 名] ・11 月：地域貢献事業発表会 [来場者数約 150 名] 		<p>○第 1 期中期計画の時にまいた種が花開いてきた。</p>	

中期目標	中期計画	平成 28 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>・技術相談：25 件</p> <p>以上のとおり、受託研究・共同研究の件数が著しく増加するなど、引き続き高い実績を挙げて社会との連携に大きく貢献した。</p> <p>○芸術学部及び芸術学研究科では、地域社会との連携を通じた地域展開型の芸術プロジェクトを推進した。教員主導 27 件、学生主導 3 件、計 30 件の充実したプロジェクトを展開した。</p> <p>【主なプロジェクト】</p> <p>・「基町プロジェクト」では、11 月にシンポジウム「広島基町高層アパートと大高正人」を開催し、多くの参加者を得て基町地区の再認識につなげた。また、平成 27 年度に好評を得た「もとまちカフェ」及び「基町、昔の写真展」を継続して開催するとともに、食をテーマとする新たな企画「グローバルキッチン」などで地域との交流を図った。2 月下旬から 3 月下旬までにかけては、広島市立中央図書館と連携し、これまでの「基町プロジェクト」の取組に関する企画展示を行い、市民に広く活動を公開した。</p> <p>・COC+アートプロジェクトでは、宮島教育研究施設の整備が完了し、そこを活動拠点として、「厳島八景に関する教育事業」及び「宮島でのテーマ制作と展覧会」の二つのプロジェクトを行った。</p> <p>そのほか、香川県小豆島町と連携し、「瀬戸内国際芸術祭 2016」に教員及び学生が合わせて 10 作品を出展するなど、県外での活動も活発に実施した。</p> <p>以上のとおり、地域貢献の一環として様々なプロジェクトを実施し、芸術の社会的役割を広く地域に示した。</p> <p>○教員及び学生の実施する事業を支援するため、社会連携プロジェクト及び市大生チャレンジ事業を実施し、次の成果を得た。</p> <p>【取組実績】</p> <p>社会連携プロジェクト（教員の社会貢献活動に対して 1 件当たり 100 万円を限度に事業費を支援する制度）</p> <p>件数：8 件（平成 27 年度実績：10 件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島広域都市圏鳥瞰図の制作 ・あさみなみ芸術化構想 2016 ・第 16 回広島国際アニメーションフェスティバル出展参加 ・電源自立型河川監視カメラシステムの構築と検証 ・「グローバルキッチン」プロジェクト 			

中期目標	中期計画	平成 28 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<ul style="list-style-type: none"> ・宮島でのテーマ制作と展覧会 ・基町、昔の写真展Ⅱデジタルアーカイブ化研究 ・厳島八景に関する教育事業 <p>市大生チャレンジ事業（学生の社会貢献活動に対して1件当たり10万円を限度に事業費を支援する制度） 件数：6件（平成27年度実績：4件）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的板目木版画技法による宮島観光マップ製作のための調査研究 ・市大生によるパソコンなんでも相談室2016 ・地域交流と社会貢献を兼ねたランドアートプロジェクト ・地域商店街活性化への貢献 ・広島の中・高校生を対象としたプログラミング教室 ・ヒロシマピースキャンプ2016 <p>以上のとおり、教員及び学生の実施する多くのプロジェクトを支援し、「広島広域都市圏鳥瞰図の制作」など優れた成果を挙げるとともに、市大生チャレンジ事業については、事業実施後に教員及び学生向けの報告会を開催し、学生のプレゼンテーション能力の向上などにもつながった。</p> <p>以上のように、地域、行政機関、企業など社会との連携の推進について優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
<p>5 国際交流に関する目標</p> <p>グローバルな知見を得るとともに、大学の国際化を推進するため、学生及び教員の国際交流を積極的に推進するとともに、留学生への支援の充実を図る。</p>	<p>5 国際交流（大項目）</p>		<p>大項目評価</p> <p>短期派遣・短期受入各3件のプログラムの新規実施など、積極的な国際交流を推進した。その結果、派遣・受入留学プログラム参加学生数は平成27年度の111名から著しく増加して214名となり、第2期中期計画に掲げた目標（192名）を上回った。また、海外学術交流協定大学の拡充に向け、短期留学プログラムによる交流などを通じ、今後の交流拡大について連携を深めた。平成28年11月には公立大学では初となる日露青年フォーラムを開催し、参加した学生は核兵器及びテロリズムの廃絶、世界平和の実現などについて議論し、お互いの理解を深めた。</p> <p>日本人学生及び留学生への支援として、短期留学プログラム参加者への助成制度を創設して同プログラムへの参加を促進するとともに、新たに留学生に対するeラーニングを利用した日本語学習機会を提供した。また、海外渡航中の学生の危機管理のため、外部講師による危機管理セミナーの実施や危機管理カードの配付などを行った。</p>	s	<p>【評価理由】</p> <p>国際交流全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 28 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>国際学生寮については、これまでの調査・検討結果を反映し、高い教育効果を狙う設計を実現するとともに、平成 30 年度の開寮に向けて順調に施工、管理運営、教育、交流等に関する業務を実施した。</p> <p>以上のように、特に優れた取組を実施したことから、「S」と評価した。</p>			
	<p>(1) <u>国際交流の推進(小項目)</u></p> <p>言語、地域、学術分野等を踏まえた海外学術交流協定大学の戦略的な開拓、短期留学プログラムの新規実施等により、学術交流及び学生交流を推進する。平成 33 年度までに、派遣・受入留学プログラム参加学生数を年間 192 人(平成 26 年度 96 人)にする。</p>	<p>○海外学術交流協定大学の戦略的な開拓、短期留学プログラム等の実施</p>	<p><u>小項目評価</u></p> <p>○短期留学プログラムの充実をはじめ、積極的な国際交流を推進した。短期派遣・短期受入各 3 件のプログラムの新規実施などに取り組んだ結果、派遣・受入留学プログラム参加学生数は第 2 期中期計画の数値目標 192 名を上回る 214 名まで増加した(平成 27 年度 111 名)。</p> <p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・派遣学生数：83 名 長期派遣：西京大学校(韓国)、ハノーバー専科大学(ドイツ)など 10 校へ 22 名 短期派遣(短期語学研修プログラム及び海外交流プログラム)：シンガポール国立大学、オルレアン大学など 7 校へ 61 名 ・受入学生数：131 名 長期受入：西南大学、ハノーバー専科大学など 7 校から 19 名 短期受入：シンガポール国立大学、マレーシア科学大学など 5 校並びに「HIROSHIMA and PEACE」及び日露青年フォーラム参加者 112 名 <p>平成 28 年 11 月に開催した日露青年フォーラムは、公立大学では初の実施であり、ロシア国内で公募・選考された 23 名の学生が来学し、「核兵器及びテロリズムの廃絶のためには何をすべきか。そして世界平和の実現のために日露両国ができる協力とは」を全体テーマに本学の学生らと英語でディスカッションを行い、お互いの理解を深めた。</p> <p>また、海外学術交流協定大学の拡大を図るため、平成 27 年度に引き続きエミリー・カー美術デザイン大学(カナダ)を訪問し、協定の締結に向けた協議を行った。加えて、短期留学プログラムによる交流などを通じ、今後の交流拡大について連携を深めた。さらに、学外長期研修派遣制度や教員海外旅費、特定研究費など</p>	S	<p>【評価理由】</p> <p>国際交流の推進について特に優れた取組を実施したと認められることから、「S」と評価した。</p> <p>【コメント】</p> <p>○国際交流の人数は一気に増大した。</p>	S

中期目標	中期計画	平成 28 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>の公募制度の活用により、西南大学、ハノーバー専科大学をはじめとする海外学術交流協定大学との交流、国際会議での研究発表などに積極的に取り組み、学術交流を推進した。</p> <p>以上のとおり、短期留学プログラムの新規実施をはじめ、多くの大学等との派遣・受入れを実施し、参加学生数は第 2 期中期計画の数値目標を上回り、交流先大学からも高い評価を得た。</p> <p>以上のように、学術交流及び学生交流による国際交流の推進について特に優れた取組を実施したことから、「S」と評価した。</p>			
	<p>(2) 日本人学生及び留学生への支援の充実（小項目）</p> <p>ア 国際学生寮の整備を推進し、施設を活用した多様な交流を促進する。</p> <p>イ 日本人学生の派遣及び留学生の受け入れに係る支援の充実を図る。</p>	<p>○国際学生寮の整備、寮運営制度や多様な交流を促進するためのプログラムの検討</p> <p>○日本人学生の派遣及び留学生の受け入れに係る支援策の策定</p>	<p>小項目評価</p> <p>○国際学生寮の整備に向け、コンストラクション・マネージャー（発注者の代行者として、設計・施工者等の選定並びにスケジュール、コスト及び品質管理等のマネジメントを行う者）との連携の下、「設計・施工一括発注提案型総合評価落札方式」（実施設計と工事監理及び施工とを一括して発注し、品質の向上などを図るため技術提案等の価格以外の要素と価格とを総合的に評価して落札者を決定するもの）による入札を実施し、平成 28 年 8 月から実施設計を開始し、平成 29 年 3 月に建設工事に着手した。</p> <p>【諸室の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期滞在者用ユニット：日本人学生 3 名・留学生 3 名を基本に一つのユニットを構成して共同生活を実施 ・短期滞在者用ユニット：海外学術交流協定大学等からの短期的な受入れなどを実施 ・大集会室：グローバル人材育成講座や異文化理解のための教育プログラムなどを実施 ・交流スペース：フロア単位の交流を実施 ・和室：茶道・華道など日本文化の体験交流を実施 <p>そのほか、屋外交流スペースや芸術学部生等の作品展示スペースを設置</p> <p>また、平成 30 年度の国際学生寮の開寮に向け、交流プログラム、学生役職者、寮費、管理人及び各種業務委託等についての検討を進めている。</p> <p>以上のとおり、これまでの調査・検討結果を反映し、高い教育効果を狙う設計を実現するとともに、平成 30 年度の開寮に向けて順調に施工、管理運営、教育、交流等に関する業務を実施した。</p> <p>○次のとおり日本人学生の派遣及び留学生の受け入れに係る支援を</p>	a	<p>【評価理由】</p> <p>日本人学生及び留学生への支援の充実について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>【コメント】</p> <p>○国際学生寮の開寮に向けた最後の調整・仕込み段階が順調に進行している。</p>	A

中期目標	中期計画	平成28年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>行った。</p> <p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期留学プログラム（短期語学研修プログラム及び海外交流プログラム）参加者に対する助成制度を創設した。 ・特別聴講学生を対象にホームステイプログラムを実施し、地域住民との交流を図った。 ・危機管理セミナーの実施や新たに危機管理カードを携帯させることなどにより、海外渡航中の学生の危機管理意識の高揚を図った。 ・留学生と日本人学生とが互いの母語を教え合う学生ランゲージチューター制度を創設し、留学生が日本語学習支援を受けやすい環境を整備した。 ・留学生に対し、eラーニングを利用した課外での日本語学習機会の提供を開始した。延べ22名の留学生が受講した。 <p>以上のとおり、充実した支援を多数実施した。特に、短期留学プログラム参加者に対する助成制度の創設は、学生に同プログラムへの参加を促す上で大きな成果を挙げた。</p> <p>以上のように、日本人学生及び留学生への支援の充実について優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標	第3 業務運営の改善及び効率化等に関する目標を達成するためとるべき措置					
1 業務運営の改善及び効率化に関する目標	<u>1 業務運営の改善及び効率化</u> <u>（大項目）</u>		<p>大項目評価</p> <p>全学人事委員会において教員の戦略的かつ機動的な任用に取り組んだ。また、職員の任用について広島市と協議を行うとともに、研修等の実施により職員の能力向上に努めた。</p> <p>社会に開かれた大学づくりを推進するため、マツダ株式会社との協働による「マツダ・広島市立大学芸術学部共創ゼミ」を開設することとし、地域ニーズの把握と教育研究への反映に取り組んだ。また、大学オリジナルグッズ（ノート3種、クリアファイル4種）を作成するとともに、全学公式ウェブサイト及び大学案内の一体的なりニューアルに着手した。</p> <p>公益財団法人大学基準協会による認証評価を受審して大学基準に適合していることが認定されるとともに、広島市公立大学法人評価委員会による中期目標期間の業務実績に係る評価を受審し、第1期中期目</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>業務運営の改善及び効率化のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B

中期目標	中期計画	平成 28 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>標の達成状況が良好であるとの評価を受けた。評価結果を踏まえ、「内部質保証委員会」の設置など内部質保証（高等教育機関が、自らの責任で自学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を基に改革・改善に努め、それによって、その質を自ら保証すること。）の充実に向けて取り組んだ。</p> <p>教職員の健康の保持増進及び安全衛生管理の向上を図るため、定期健康診断の受診勧奨や時間外勤務の削減に取り組んだ。また、研修会等の実施による服務規律の確保や情報セキュリティ対策規程の改正等による危機管理の強化に努めた。加えて、平成 26 年度の学外長期研修に係る懲戒解雇事案の発生を踏まえ、不祥事の再発防止対策に取り組んだ。</p>			
<p>(1) 機動的かつ効率的な運営体制の構築</p> <p>質の高い教育研究が継続的に推進されるよう、中長期的かつ経営的視点から、幅広い人事体制の確保並びにコスト意識を持った業務改善及び効率化により、機動的かつ効率的な大学運営を行う。</p> <p>また、社会経済環境の変化に即応する経営を担保する観点から、学外専門家の一層の活用を図る。</p>	<p>(1) 機動的かつ効率的な運営体制の構築（小項目）</p> <p>ア 本学の特色を生かした教育研究を推進するため、全学的かつ中長期的視点から教員を戦略的かつ機動的に任用・配置する。</p> <p>イ 事務の継続性及び職員の事務処理能力の専門性を高め、効率的かつ安定的な運営体制を構築するため、中長期的視点から職員を任用・配置する。</p> <p>ウ 研修の充実等により、職員の能力向上を図る。</p> <p>エ 教育、学生支援、大学運営等の質の向上を図るため、IR（Institutional Research：学内の様々な情報を収集・分析し、大学業務の質の向上に活用することをいう。）を導入する。</p>	<p>○全学人事委員会における教員の戦略的かつ機動的な任用、配置の検討</p> <p>○職員の任用に関する広島市との協議</p> <p>○公立大学職員セミナーへの参加、新規配属職員研修・各室等が主催する業務研修等の実施</p> <p>○IR の導入に向けた検討</p>	<p>小項目評価</p> <p>○教員の戦略的かつ機動的な任用・配置に取り組んだ。</p> <p>全学人事委員会での審議を着実に重ね、採用方針が決定している常勤教員 17 ポスト中 14 名の任用を決定し、そのうち 2 名については平成 28 年 10 月に任用した（残る常勤教員 3 ポストは、慎重な審議を重ね、優秀な人材を確保するため不採用・再公募とした。）。</p> <p>平成 29 年度の「広島市立大学塾」の創設に向けた特任教授（副塾長）ポストの新設により、第 2 期中期計画の重点取組項目の着実かつ迅速な実現につなげた。</p> <p>また、内部質保証など大学全体で取り組む必要がある重要課題に適切に対応するため、平成 29 年度から、理事長及び理事を補佐し、法人の業務のうち、特に学内の連携が必要な重要事項の総合調整を担当する「理事長補佐」を配置することとした。</p> <p>以上のとおり、公立大学法人制度の利点を生かし、戦略的かつ機動的な任用・配置を実施した。</p> <p>○事務局等の職員の事務処理能力の専門性を高め、効率的かつ安定的な運営体制を構築するため、職員の任用について検討し、任用に向けた広島市との協議を行った。</p> <p>また、非常勤嘱託員の配置について全学的な視点で検討した結果、2 ポストについて既存の職種からの振替任用を行った。</p> <p>○各所属における OJT と FD・SD 研修会等の Off-JT の効果的な実施により、職員の能力向上に取り組んだ。</p> <p>一般社団法人公立大学協会が主催する公立大学職員セミナーに 6</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>機動的かつ効率的な運営体制の構築のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○運営体制の構築・実施が順調に進んでいる。</p>	B

中期目標	中期計画	平成 28 年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>オ 大学運営の効率化及び質の向上を図るため、学内外の多様な意見を活用しつつ、運営組織の在り方及び事務処理の内容・方法について定期的に点検し、必要に応じて改善を行う。</p>	<p>○学外専門家を招いた研修会等の開催、運営組織の在り方や事務処理の内容・方法の点検実施</p>	<p>名（新任向け研修会 3 名、会計実務研修会 2 名、研修協議会 1 名）の事務局職員を派遣した。</p> <p>また、各学部において FD セミナーを開催し、各学部独自の取組によって職員の能力向上を図った。</p> <p>○IR の導入に向けたワーキンググループを設置し、本学の教学面の現状や、高大接続改革の展望などを踏まえ、本学に適した IR の在り方を検討した。</p> <p>また、学外セミナーや他大学大学院の集中講義等に参加し、IR の理論、歴史、方法論、他大学での実施例などについて見識を深めた。</p> <p>平成 28 年度の後半には、学生の成績分布などの既存データを用いて、入試区分と GPA（履修科目ごとの成績に評点を付けて全科目の平均値を算出した値）推移の相関関係や入試区分ごとの留年・休学・退学の割合などを算出・グラフ化し、IR の試験的实施に取り組んだ。</p> <p>○次のとおり、学外講師を招いた研修会等を実施したほか、運営組織の在り方及び事務処理の内容・方法の点検に取り組んだ。</p> <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学外専門家の意見等を大学運営に活用するため、大学経営や入試改革等の各種研修会へ参加したほか、大学改革等を支援する企業への IR や高大接続改革についての意見聴取、入学試験出願状況等のデータ分析及び全学的な研修会の開催などに取り組んだ。 ・障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律に関する研修会を開催し、修学上の合理的配慮などについての教職員の理解を深めた。 ・法人の設立団体である広島市への組織・人員要求の機会を捉え、運営組織の在り方について点検したほか、事務マニュアルによる事務処理の改善・検証に継続して取り組み、新規事務事業に係るマニュアルの制定及び既制定分の点検・更新を行った。さらに、立替払等の契約事務に係る制度の趣旨や処理についての正確な知識、適正な取扱方法等について周知・徹底を図るため、「立替払等契約事務（物品購入）マニュアル」を制定し、同マニュアルに基づく研修会を開催した。同研修会については、産前産後休業又は育児休業などのやむを得ない事情のある者を除き、全教職員に受講を徹底させた。 			

中期目標	中期計画	平成28年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(2) 社会に開かれた大学づくりの推進 教育研究成果の積極的な広報及び大学ブランドの向上に向けた戦略的な情報発信の強化により、社会に開かれた大学づくりを推進するとともに、地域のニーズ等を的確に把握し、教育研究等への反映を図る。	(2) 社会に開かれた大学づくりの推進 (小項目) ア 地域の企業・自治体等との積極的な連携・交流を通じて地域のニーズを的確に把握し、教育研究活動への反映等に取り組み、社会に開かれた大学づくりを推進する。 イ 教育研究等の実績の積極的な公開等により、教員活動の活性化と社会への説明責任を果たす取組を推進する。 ウ 魅力的で利用しやすいものとするため、ウェブサイトのリニューアルを行うとともに、英語版ウェブサイトをはじめとするコンテンツの充実に取り組む。また、多様なメディアの相互活用により、効果的かつ魅力的な広報を展開する。 エ 本学のブランドイメージの一層の浸透を図るため、コミュニケーションマーク等を用いた大学オリジナルグッズを開発し、活用する。	○各種連携・交流事業等を通じた地域のニーズの把握と教育研究等への反映 ○教員の教育・研究実績の公開状況の点検・修正、教員業績総覧の発行に向けた検討 ○ウェブサイトのリニューアルに向けた調査・仕様検討、英語版ウェブサイトの改善、映像コンテンツ等の作成 ○記念品の検討、ワーキンググループによる大学オリジナルグッズ作成の検討	以上のように、機動的かつ効率的な運営体制の構築について計画に掲げる取組を着実に実施したことから、「b」と評価した。			
			小項目評価 ○芸術学部では、マツダ株式会社と協働した人材育成プログラムの開発に向けた協議・調整を行った結果、新たなモノづくりと新たな時代を形成し得る人材を育成し、広島が世界に誇れるモノづくりを輩出する地となることを目指し、平成29年度から新たに「マツダ・広島市立大学芸術学部共創ゼミ」を開設することとした。 【共創ゼミの概要】 ・開設期間：平成29年度～平成31年度（延長は双方協議の上決定）。 ・対象：芸術学部2年次以上の学部生、芸術学研究科の大学院生等。 ※平成29年度は、様々な学年・専攻の18名の学生が受講予定。 ・内容：マツダ株式会社からの派遣講師と芸術学部教員の指導の下で演習を行い、受講者にモノづくりのスキルを多角的に身に付けさせる。平成29年度は、同社が世界最大規模のデザインの祭典「ミラノサローネ国際家具見本市」に合わせて開催される「ミラノデザインウィーク2018」に出展する作品制作を題材として、道具について考察し、新たな価値（モノ）を創り出す考え方を学びながら、質の高い造形に仕上げている創作のプロセスを修得することを目指す。これらを通じて、広島発の新たな価値を提供する人材の育成に取り組む。 そのほか、受託研究・共同研究の実施などを通じ、地域のニーズの把握と教育研究等への反映に取り組んだ（受託研究・共同研究45件）。 以上のとおり、地域のニーズを反映し、本学ならではの特色ある人材育成の推進に資する画期的な取組を実現した。 ○公益財団法人大学基準協会による認証評価の受審を踏まえ、教員の教育・研究実績の公開状況（教員システムへの実績入力状況）の点検・修正を行った。 一部の教員の公開状況について不十分であることが確認されたため、平成29年2月に理事長から全教員に対し、教育・研究等の業績に係る情報の更新徹底について通達するとともに、教授会	a	【評価理由】 社会に開かれた大学づくりの推進について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。 【コメント】 ○芸術学部においては、独自のプログラムを含め、計画を上回る成果を挙げた。	A

中期目標	中期計画	平成28年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>を通じて周知を図り、教育・研究実績の公開を徹底した。</p> <p>また、「教員業績年鑑」(仮称)の発行について検討するとともに、平成29年度から定期的な教育・研究実績の「更新ウィーク」を設定することとした。</p> <p>○全学公式ウェブサイトと大学案内のリニューアルに当たり、デザインコンセプト等を統一する観点から、これらのリニューアル業務を一括して行うこととし、公募型コンペティション方式による公募を実施し、平成29年2月に受託業者を決定してリニューアルに向けた業務を開始した。</p> <p>英語版ウェブサイトについては、留学生目線で掲載コンテンツの整理・充実やデザインの改善を行った。</p> <p>映像コンテンツについても最新の情報・魅力的な大学紹介の視点から大学紹介ビデオの全面リニューアルを行うこととし、平成29年6月の完成を目指して撮影・編集等に着手した。</p> <p>また、多様なメディアの活用策として、LINEやGoogle アースを活用した広報や大学紹介を新たに開始した。</p> <p>以上のとおり、計画ではウェブサイトのリニューアルに向けて調査・仕様検討を行うとしていたところ、ウェブサイトのリニューアルに着手して計画を上回る実績を挙げた。</p> <p>○「広報戦略策定ワーキンググループ」を設置し、平成29年3月に「広島市立大学広報戦略」を策定した。併せて、ブランドイメージを更に高め、浸透させる手段として、コミュニケーションマークを用いた記念品や大学オリジナルグッズの検討を行い、ノート3種、クリアファイル4種を作成し、記念品として漆ペン(芸術学部デザイン工芸学科(漆造形)の学生が制作する本学の特色を生かした記念品)の制作に着手した。</p> <p>以上のとおり、計画では記念品や大学オリジナルグッズ作成の検討を行うとしていたところ、大学オリジナルグッズを作成して計画を上回る実績を挙げた。</p> <p>以上のように、社会に開かれた大学づくりの推進について優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
2 財務内容の改善に関する目標	2 財務内容の改善(大項目、小項目)		<p>大項目評価</p> <p>自己収入の増加及び運営経費の効率的な執行のための取組を創意工夫して実施した。</p> <p>売店等のリニューアルに伴い売上げが著しく増加したこと、また、</p>	a	〔評価理由〕 財務内容の改善について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A

中期目標	中期計画	平成28年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>売店等の運営受託事業者から徴収する事業協力金の徴収率を見直した ことにより、リニューアル後の平成28年10月から平成29年3月まで における事業協力金の総額は前年同時期に比べて約2.5倍に増加した。 また、寄附金の獲得推進を目的とした「広島市立大学基金」を同 月に創設するとともに、学内施設の貸付けに係る利用料の徴収、外部 資金の積極的な獲得などによる多様な収入の確保に努めた。</p> <p>教育研究水準の維持向上に配慮しつつ、財務内容の改善を図るため、 各部局において予算の適正かつ効率的な執行に取り組んだ。また、平 成29年度予算の編成に当たっては、経常的経費の削減やリースの見直 しなど徹底した経費節減に取り組み、第2期中期計画の実現に向けた 新規事業の実施などに係る財源を確保した。</p> <p>以上のように、優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
<p>(1) 自己収入の増加 教育研究環境を 向上させるため、外 部資金の積極的な 獲得に取り組むな ど、自己収入の増加 を図る。</p> <p>(2) 運営経費の見直 し 質の高い教育研 究が継続的に推進 されるよう、経営的 視点から、人員配置 を含め、大学運営に 関するあらゆる経 費の見直し及び効 率的な執行を図る。</p>	<p>(1) 外部資金の獲得、大学が保 有する施設・設備の利活用の 促進等により、多様な収入の 確保に努める。また、同窓会 等との連携の下、教育研究活 動の充実等を目的とした「広 島市立大学基金」(仮称)を 創設する。</p> <p>(2) 大学の持続的な発展のため、大学運営の恒常的な見直 し・改善を通じ、教職員一人 一人のコスト意識を高め、経 費の適正かつ効率的な執行 に努める。</p>	<p>○多様な収入の確保、寄 附金に係る他大学の取 組等の調査</p> <p>○各部局、委員会、事務 局における経費の適正 かつ効率的な執行の検 証、事務事業の見直し</p>	<p>小項目評価</p> <p>○次のとおり、多様な収入の確保に取り組んだ。</p> <p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売店等のリニューアルに伴い売上げが著しく増加したこと、 また、売店等の運営受託事業者から徴収する事業協力金の徴 収率を見直したことにより、事業協力金収入が増加した。売 店等のリニューアル後の平成28年10月から平成29年3月ま でにおける事業協力金の総額は、前年同時期に比べて約2.5 倍に増加した。 ・学内施設の貸付けの際に、貸付料、光熱水費及び駐車場利用 料について適切な利用料の負担を求め、また、古紙の売払い などの収入確保に努めた。 ・寄附金の獲得を推進するため、他の国公立大学等について調 査を行い、平成29年3月に「広島市立大学基金」を創設した。 ・受託研究・共同研究等に積極的に取り組み、外部資金による 研究活動の活性化を図った。また、外部資金獲得を推進する ため、産学連携研究発表会等を実施し、研究成果のPRを行っ た。 ・受託研究、共同研究、補助金、奨学寄附金：62件、136,987 千円 <p>以上のとおり多様な手段による収入の確保に取り組んだ結果、売 店のコンビニ化を中心として、自己収入の確保に成果を挙げた。</p> <p>○予算の適正かつ効率的な執行のため、次のとおり取り組んだ。</p>	a	<p>〔評価理由〕 財務内容の改善について優 れた取組を実施したと認められる ことから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成28年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算の執行に当たっては、常に事務事業の見直し及び経費節減に努めるよう年度当初に学内へ通知した内容に従い、各局において経費の適切かつ効率的な執行に努めた。 ・平成29年度予算要求に当たっては、経費節減により必要な財源確保に取り組み、限られた財源の有効活用を図る観点から、緊急性、重要性、費用対効果等を十分検討した上で予算要求を行うよう学内に通知した。予算編成では、経常的経費の3%削減、情報科学部3年生用実験機器のリース料の原契約の10%相当額削減などの徹底した経費節減に取り組み、第2期中期計画の実現に向けた新規事業の実施などに係る財源を確保した。 ・平成27年度の入札実績から、入札の現状・課題を検証し、経費節減の観点から入札等契約事務を執行する上で留意すべき事項について周知した。 ・教員研究費予算を計画的・効率的に執行することができるよう、引き続き、3年間を一つの単位として年度を超えた研究費の活用を可能とした。また、平成28年度からは、各学部等に配分する科学研究費間接経費相当額の執行残の一部についても、教員研究費予算と同様に3年間を一つの単位として年度を繰り越すことを認め、柔軟な予算執行を可能とした。 ・経常的な業務全般について事務マニュアルを制定し、定期的に点検を行い、事務処理の内容及び方法について改善を図ることにより、的確かつ効率的な業務運営を図った。 <p>以上のとおり、予算の適正かつ効率的な執行に努め、特に、平成29年度の予算編成に当たっては徹底的な経費節減に成果を挙げた。</p> <p>以上のように、多様な収入源の確保及び予算の適正かつ効率的な執行による財務内容の改善について優れた取組を実施したことから、「a」と評価した。</p>			
3 自己点検及び評価に関する目標 自己点検、自己評価及び第三者機関による評価を定期的に実施す	3 自己点検及び評価（小項目） 自己点検及び評価の結果を大学運営の改善につなげるとともに、評価結果をウェブサイト等で積極的に公開する。ま	○認証評価及び第1期中期目標期間中の業務実績に係る評価の受審	<p>小項目評価</p> <p>○公益財団法人大学基準協会による認証評価を受審し、評価の結果、大学基準に適合していることが認定された。総評では「公立大学法人広島市立大学中期計画」を定め、理事長（学長）の主導の下、改革・改善に取り組んできたことなどが評価された。</p>	b	<p>【評価理由】</p> <p>自己点検及び評価について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>【コメント】</p>	A

中期目標	中期計画	平成28年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
ることにより、大学運営の改善に努める。また、評価に関する情報を積極的に公開する。	た、内部質保証（高等教育機関が、自らの責任で自学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を基に改革・改善に努め、それによって、その質を自ら保証することをいう。）の強化に取り組む。		また、第1期中期目標期間（平成22年度～平成27年度）の業務実績について、広島市公立大学法人評価委員会の評価を受審した結果、中期目標の達成状況が良好であるとの評価を受けた。これらの評価結果はウェブサイト等で公開するとともに、内部質保証の充実・強化を図るため、平成29年度から従来の自己評価委員会を改組し「内部質保証委員会」を設置することとした。また、内部質保証など大学全体で取り組む必要がある重要課題に適切に対応するため、平成29年度から、理事長及び理事を補佐し、法人の業務のうち、特に学内の連携が必要な重要事項の総合調整を担当する「理事長補佐」を配置することとした。以上のように、自己点検及び評価による大学運営の改善並びに評価に関する情報の公開について計画に掲げる取組を着実に実施したことから、「b」と評価した。		○第1期中期目標期間を通じて実施されてきた自己点検及び評価により、広島市立大学が質的に改善・高度化されてきた。例えば、執行部の意識改革が教職員や学生に伝播し全学の意識が変わった。学内的には学生へのサービスの向上を第一に環境整備とシステム改革を進め、学外的には市民と地域社会との連携の深化、また国際的にも格段に連携の輪を広げてきた。 ○大学基準協会による適合認定を受けており、この結果は高く評価できる	
4 その他業務運営に関する重要目標 (1) 施設及び設備の適切な維持管理等 快適なキャンパス環境を確保するため、既存の施設及び設備の適切な維持管理及び計画的な改修を行う。 (2) 安全で良好な教育研究環境の確保 学生及び教職員の安全衛生管理、人権及び法令遵守に関する意識の向上を図るとともに、災害等不測の事態に適切に対	4 その他業務運営（小項目） (1) 施設・設備の効率的な維持管理と長寿命化を図るため、「広島市立大学保全計画」（仮称）を策定し、計画的な維持保全に取り組む。 (2) 職場巡視、研修の定期的な実施等により、教職員の健康の保持増進及び安全衛生管理の向上を図る。 (3) 法令遵守及び各種ハラスメント等の防止に関する研修等の実施により、教職員の服務規律の確保を図る。 (4) 災害等不測の事態に適切に対応できるよう、危機管理マニュアルの点検・見直し等を行う。	○「広島市立大学保全計画」（仮称）の策定及び維持保全の実施 ○衛生管理者の養成、安全衛生管理研修・職場巡視等の実施 ○ハラスメント防止講習会、服務規律に関する学内説明会等の実施 ○危機管理マニュアルの点検・見直し等の実施	小項目評価 ○次のとおり計画的な施設・設備の維持保全に取り組んだ。 【取組実績】 ・屋根防水や個別空調機器の修繕などの維持保全を着実に実施した。 ・「広島市立大学保全計画」の策定に向けて素案の時点修正を行うとともに、大規模施設保全の実施に必要な技術系職員（電気・機械）の増員配置について広島市と協議等を行った。また、平成29年度に空調自動制御システム（中央監視装置）の更新を行うこととした。 ・他の公立大学法人の施設保全に係る人員体制や保全計画策定等の取組状況について調査を行い、本学における検討の参考にした。 ○教職員の健康の保持増進及び安全衛生管理の向上のため、次の取組を実施した。 【取組実績】 ・定期健康診断未受診者への継続的な受診勧奨を行い、高い受診率を達成した（受診率98.9%）。	c	【評価理由】 その他業務運営について計画どおり着実に実施したと認められるものの、懲戒解雇事案が発生したことから、「C」と評価した。 【コメント】 ○不祥事の再発防止に向け、啓蒙活動を含めた対応強化を望む。	C

中期目標	中期計画	平成28年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>応できる体制の充実に取り組むことにより、安全で良好な教育研究環境を確保する。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・ワーク・ライフ・バランスを推進するため、特任職員の増員、業務改善・効率化の徹底、職員への定期的な注意喚起などを行い、常勤事務職員の時間外勤務の総時間数を平成27年度に比べて約3割削減させた。 ・衛生委員会の開催に併せて年6回職場巡視を実施し、良好な職場環境の維持・向上に努めた。 ・図書館・語学センター棟（屋外）、情報科学部棟及び芸術学部棟の3か所にAEDを設置し、AEDの設置場所を従来の5か所から8か所に増やした。また、既存のAEDのうち1台を更新した。 ・「体育実技」と「健康科学」の講義において、新入生全員を対象に救急講習会を実施した。また、教職員を対象とした救急講習会を2回開催し、AEDの使用を含め、適切な救命処置を行うことができるよう知識と技術の習得に努めた。 <p>以上のとおり、教職員の健康の保持増進及び安全衛生管理の向上に係る取組を着実に実施した。特に、定期健康診断の受診勧奨や事務職員の時間外勤務の削減は、取組の徹底により大きな成果を挙げた。</p> <p>○教職員の服務規律の確保を図るため、次の取組を実施した。</p> <p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員を対象にハラスメント防止講習会を開催し、ハラスメントの防止に努めた。また、情報科学部においては、学科ごとに独自のハラスメント防止講習会を実施し、意識の向上を図った。 ・全教職員を対象に研究不正防止・研究倫理に関する研修会を開催するなど、研究不正の防止のために必要な措置を講じた。また、全教員及び研究費予算の執行に係る職員に対し、従来の「CITI Japan eラーニング」に加え「研究倫理eラーニングコース」（独立行政法人日本学術振興会）を導入・提供した。 ・事務局等の全職員を対象に職員倫理研修会を開催し、服務規律の確保を図った。 ・平成26年度の学外長期研修に端を発する証明書等の偽造、旅費の不正受給事案が発覚し、厳格かつ慎重な審査を行った結果、審査対象の教員を懲戒解雇に、所属長を文書訓告に処するとともに、理事長が報酬の一部を自主返納した（10分の1・1か月）。学内・学外長期研修実施者に対しては、理事長との 			

中期目標	中期計画	平成28年度 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>事前個別面談の実施、航空券等の原本の提出義務付けなどにより、不祥事の再発防止を図っている。</p> <p>○危機管理体制等を強化するため、次の取組を実施した。</p> <p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ対策を強化するため、情報セキュリティ対策規程及び情報セキュリティ委員会規程を改正するとともに、情報セキュリティ実施基準及び対策手順を新たに制定した。これらの規程等についてはFD・SD研修会を通じて教職員に周知した。 ・海外渡航中のテロ発生等の不測の事態に備えるため、外務省の発表する危険情報に対応して渡航の是非を判断する方針を定めるとともに、教職員及び学生に対し渡航情報の届出を徹底させ、緊急時の連絡先等を記載した危機管理カードを発行した。 ・災害対応マニュアル（事務局版）の改正を行い、「本学の事故災害」及び「指定緊急避難場所の開設」に係る対応をより円滑かつ的確に実行できる体制とした。 ・非常時の連絡体制強化に向け、各部局における連絡網の作成などの連絡体制強化に取り組んだ。 ・広島市安佐南消防署と連携し避難訓練を実施するとともに、同署職員を講師とし、危機管理研修会を実施した。 ・国際交流担当職員等を対象に、テロ等発生時における危機管理に関する研修会を開催し、海外におけるセキュリティ・リスクと安全対策についての理解を深めた。 <p>以上のとおり、危機管理体制等の強化に係る取組を着実に実施した。特に情報セキュリティ対策規程の改正等は、情報セキュリティ対策の実施手順の明確化や体系化を行う優れた成果を挙げた。</p> <p>以上のように、施設・設備の効率的な維持管理、教職員の服務規律の確保等その他業務運営の改善のための取組を実施したものの、懲戒解雇事案が発生したことから、「c」と評価した。</p>			

広島市公立大学法人評価委員会 委員名簿

職名	氏名	現職等	備考
委員長	平澤 洽	東京大学名誉教授	
委員	金田 晋	広島大学名誉教授	
委員	下中 奈美	弁護士	
委員	角廣 勲	株式会社広島銀行会長	
委員	最上 敏樹	早稲田大学教授	